

3 5年間でのバリアフリー化の評価

(1) 5年前と比較してのバリアフリー化の進展 (問4)

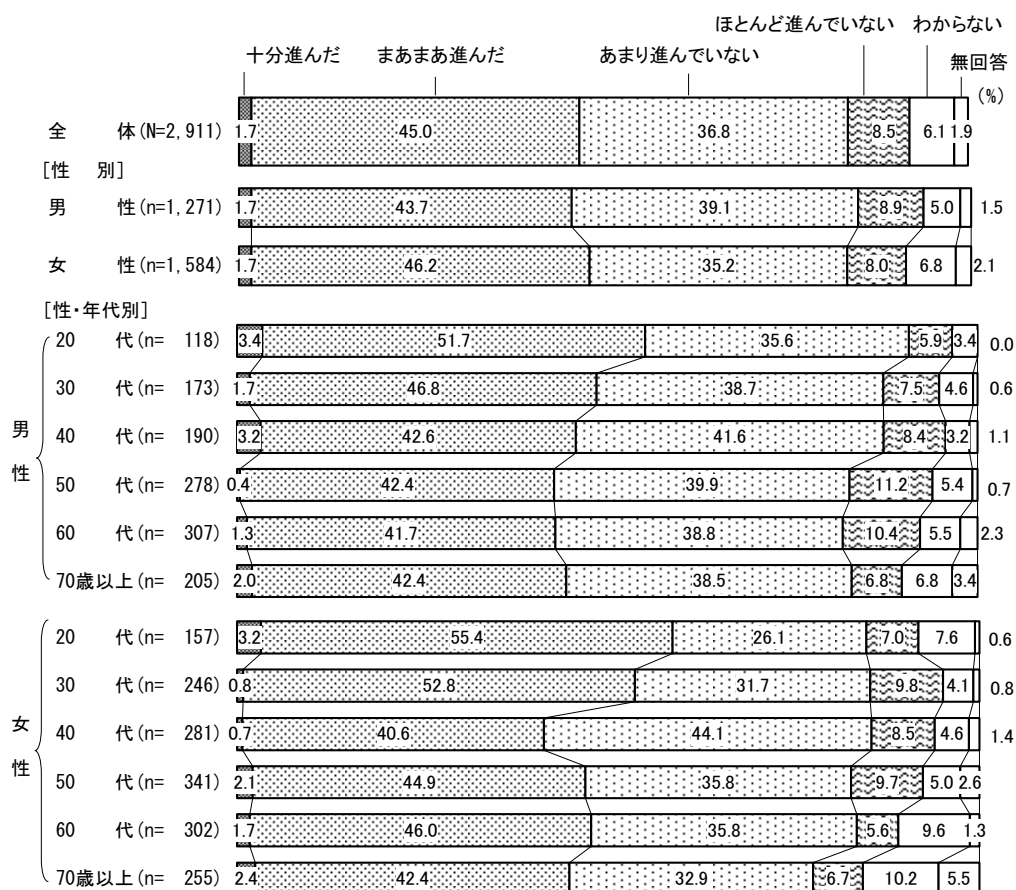
① 全体及び性・年代別の結果

日常生活や社会生活の全般については、5年ほど前と比較して「進んだ」が46.7%（「十分進んだ」1.7%、「まあまあ進んだ」45.0%の計、以下同様）、「進んでいない」が45.3%（「あまり進んでいない」36.8%と「ほとんど進んでいない」8.5%の計、以下同様）となっている（図表Ⅱ-3-1-①全体）。

性別にみると、男性は「進んでいない」が多く48.0%で、「進んだ」の45.4%を2.6ポイント上回っており、女性は「進んだ」が多く47.9%で、「進んでいない」の43.2%を4.7ポイント上回っている（図表Ⅱ-3-1-①性別）。

「進んだ」と「進んでいない」の比較を性・年代別にみると、「進んだ」が多いのは、多い順に女性20代（「進んだ」58.6%、「進んでいない」33.1%、以下同様）、男性20代（55.1%、41.5%）で、「進んでいない」が多いのは多い順に女性40代（41.3%、52.6%）、男性50代（42.8%、51.1%）となっており、男女とも若い世代ほど「進んだ」が多くなっている（図表Ⅱ-3-1-①性・年代別）。

図表Ⅱ-3-1-① 5年前と比較してのバリアフリー化の進展—全般（全体、性別、性・年代別）



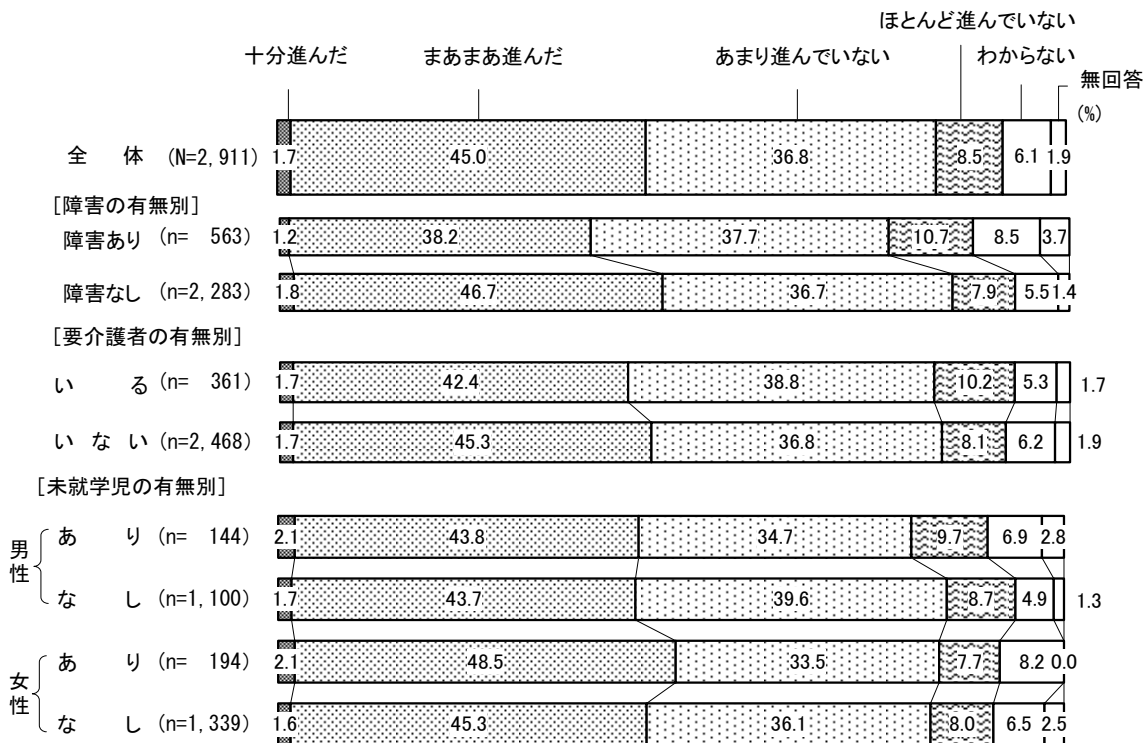
② 障害・要介護者・未就学児の有無別の結果

障害の有無別にみると、障害ありは「進んでいない」が多く48.4%（「あまり進んでいない」37.7%、「ほとんど進んでいない」10.7%の計、以下同様）、「進んだ」39.4%（「十分進んだ」1.2%、「まあまあ進んだ」38.2%の計、以下同様）であり、障害なしは逆に「進んだ」が若干多く48.5%、「進んでいない」44.6%となっている（図表Ⅱ-3-1-②）。

要介護者の有無別にみると、いるの場合「進んでいない」が多く49.0%（「あまり進んでいない」38.8%、「ほとんど進んでいない」10.2%の計、以下同様）、「進んだ」は44.1%（「十分進んだ」1.7%、「まあまあ進んだ」42.4%の計、以下同様）であり、いないの場合「進んだ」が多く47.0%、「進んでいない」は44.9%となっている（図表Ⅱ-3-1-②）。

性・未就学児の有無別にみると、「進んだ」と「進んでいない」の比較で「進んだ」が多いのは、多い順に女性・あり（「進んだ」50.9%、「進んでいない」41.2%、以下同様）、女性・なし（46.9%、44.1%）、男性・あり（45.9%、44.4%）、男性・なし（45.4%、48.3%）となっている（図表Ⅱ-3-1-②）。

図表Ⅱ-3-1-② 5年前と比較してのバリアフリー化の進展
（全体、障害の有無別、要介護者の有無別、未就学児の有無別）

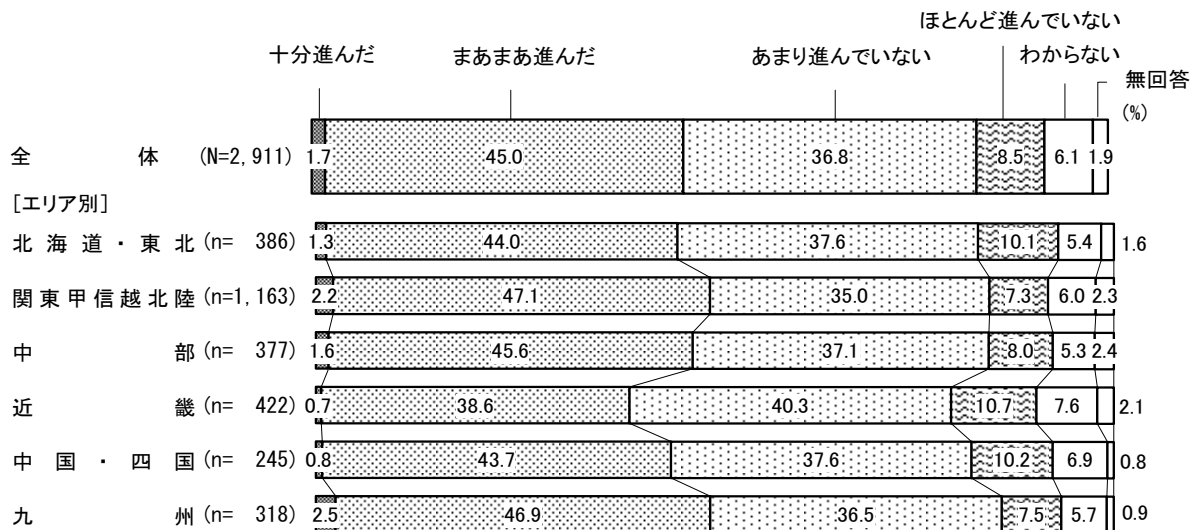


③ エリア別、都市規模別の結果

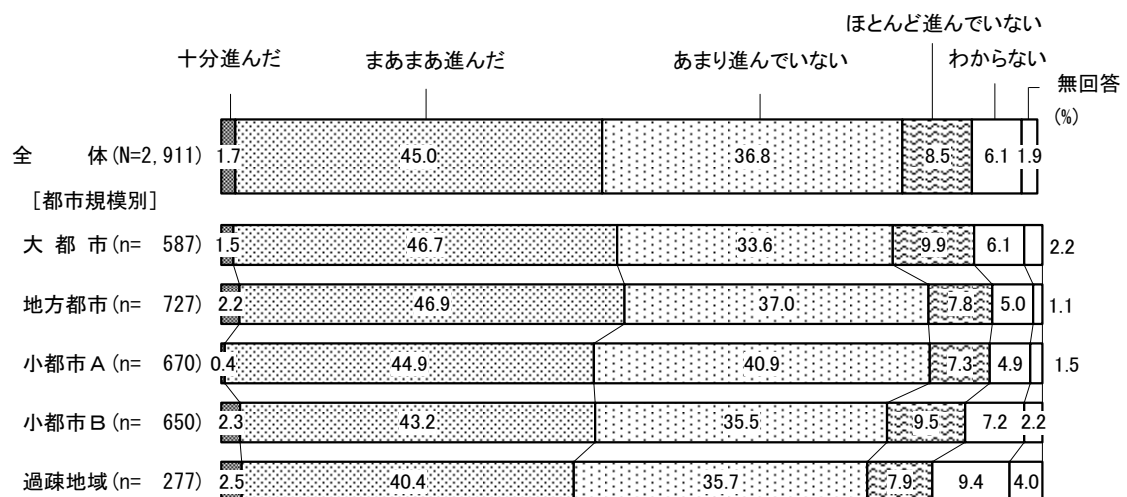
エリア別にみると、「進んだ」が多いのは関東甲信越北陸（「進んだ」49.3%、「進んでいない」42.3%、以下同様）、中部（47.2%、45.1%）、九州（49.4%、44.0%）で、「進んでいない」が多いのは北海道・東北（45.3%、47.7%）、近畿（39.3%、51.0%）、中国・四国（44.5%、47.8%）となっている（図表Ⅱ－3－1－③）。

都市規模別にみると、「進んだ」が多いのは大都市（「進んだ」48.2%、「進んでいない」43.5%、以下同様）、地方都市（49.1%、44.8%）、小都市B（45.5%、45.0%）、「進んでいない」が多いのは小都市A（45.3%、48.2%）、過疎地域（42.9%、47.6%）となっている（図表Ⅱ－3－1－④）。

図表Ⅱ－3－1－③ 5年前と比較してのバリアフリー化の進展（全体、エリア別）



図表Ⅱ－3－1－④ 5年前と比較してのバリアフリー化の進展（全体、都市規模別）



(2) 分野別にみたバリアフリー化の進展 (問5)

<建築物>

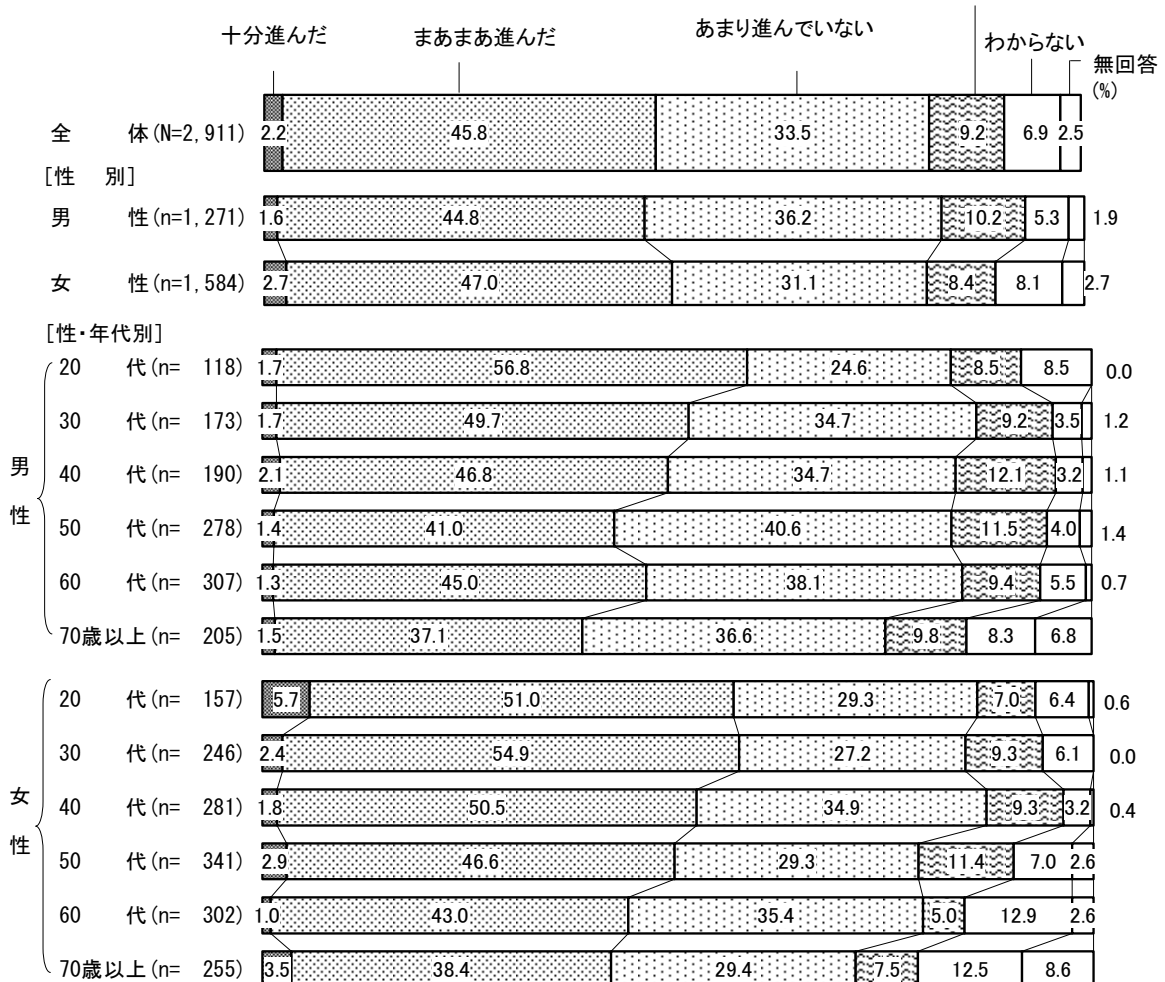
① 全体及び性・年代別の結果

建築物については、5年ほど前と比較して、「進んだ」が48.0%（「十分進んだ」2.2%と「まあまあ進んだ」45.8%の計、以下同様）、「進んでいない」が42.7%（「あまり進んでいない」33.5%、「ほとんど進んでいない」9.2%の計、以下同様）となっている（図表Ⅱ-3-2-①全体）。

性別にみると、男性は「進んだ」と「進んでいない」が同じく46.4%で、女性は「進んだ」が多く49.7%で、「進んでいない」の39.5%を10.2ポイント上回っている（図表Ⅱ-3-2-①性別）。

性・年代別にみると、「進んだ」が多いのは、多い順に男性20代（「進んだ」58.5%、「進んでいない」33.1%、以下同様）、女性30代（57.3%、36.5%）で、「進んでいない」が多いのは多い順に男性50代（「進んだ」42.4%、「進んでいない」52.1%、以下同様）、男性60代（46.3%、47.5%）となっており、男女とも若い世代ほど「進んだ」が多くなっている（図表Ⅱ-3-2-①性・年代別）

図表Ⅱ-3-2-① 5年前と比較してのバリアフリー化の進展—建築物（全体、性別、性・年代別）
ほとんど進んでいない



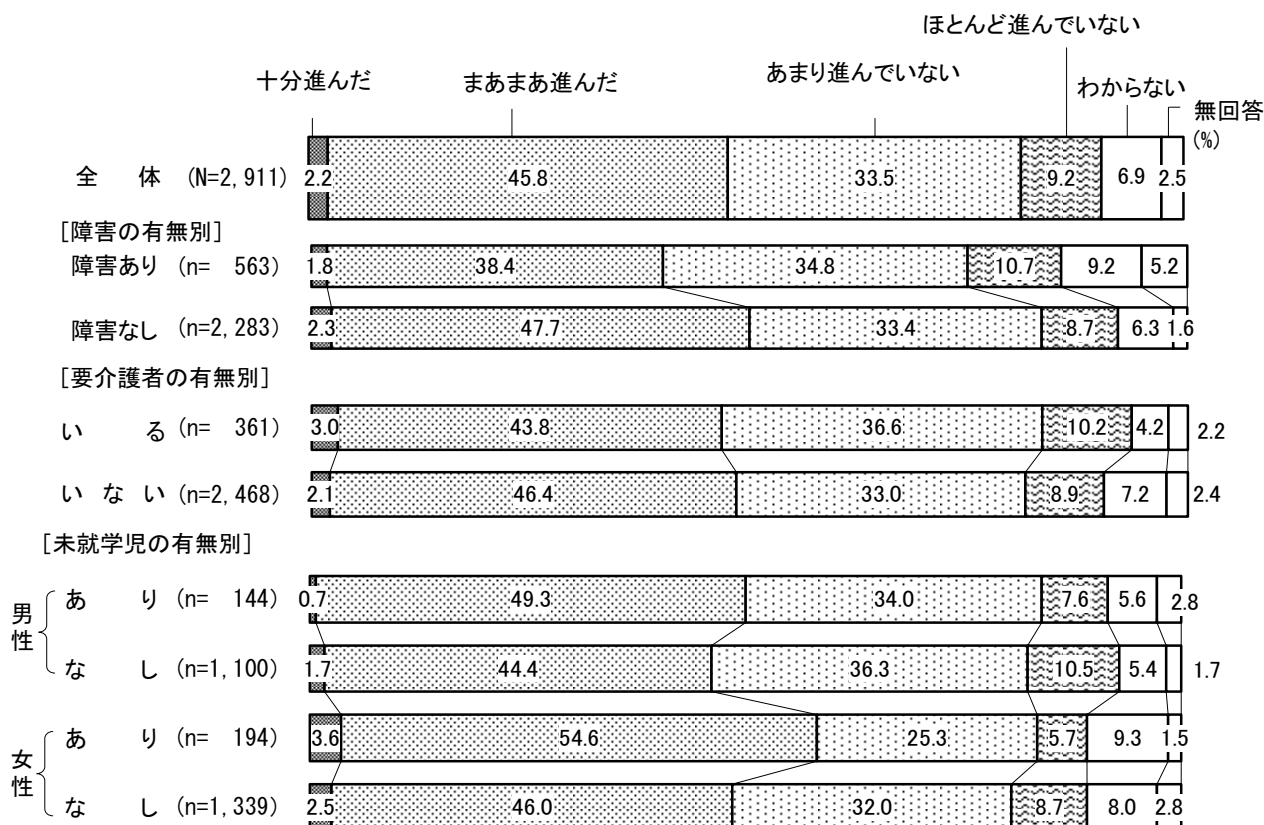
② 障害・要介護者・未就学児の有無別の結果

障害の有無別にみると、障害ありは「進んでいない」が多く45.5%（「あまり進んでいない」34.8%、「ほとんど進んでいない」10.7%の計、以下同様）、「進んだ」は40.2%（「十分進んだ」1.8%と「まあまあ進んだ」38.4%の計、以下同様）で、障害なしは逆に「進んだ」が多く50.0%で「進んでいない」は42.1%である（図表Ⅱ-3-2-②障害の有無別）。

要介護者の有無別にみると、いるの場合「進んだ」「進んでいない」が同じく46.8%で、いないの場合「進んだ」が多く48.5%、「進んでいない」41.9%となっている（図表Ⅱ-3-2-②要介護者の有無別）。

性・未就学児の有無別にみると、「進んだ」と「進んでいない」の比較で「進んだ」が多いのは、多い順に女性・あり（「進んだ」58.2%、「進んでいない」31.0%、以下同様）、男性・あり（50.0%、41.6%）、女性・なし（48.5%、40.7%）で、「進んでいない」が多いのは男性・なし（46.1%、46.8%）となっている（図表Ⅱ-3-2-②未就学児の有無別）

図表Ⅱ-3-2-② 5年前と比較してのバリアフリー化の進展－建築物
（全体、障害の有無別、要介護者の有無別、未就学児の有無別）

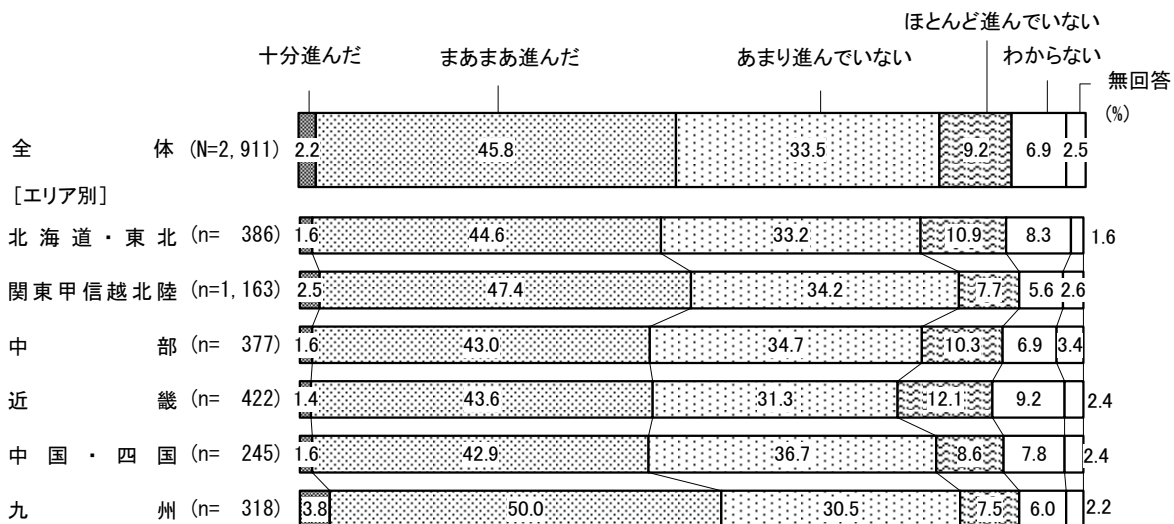


③ エリア別、都市規模別の結果

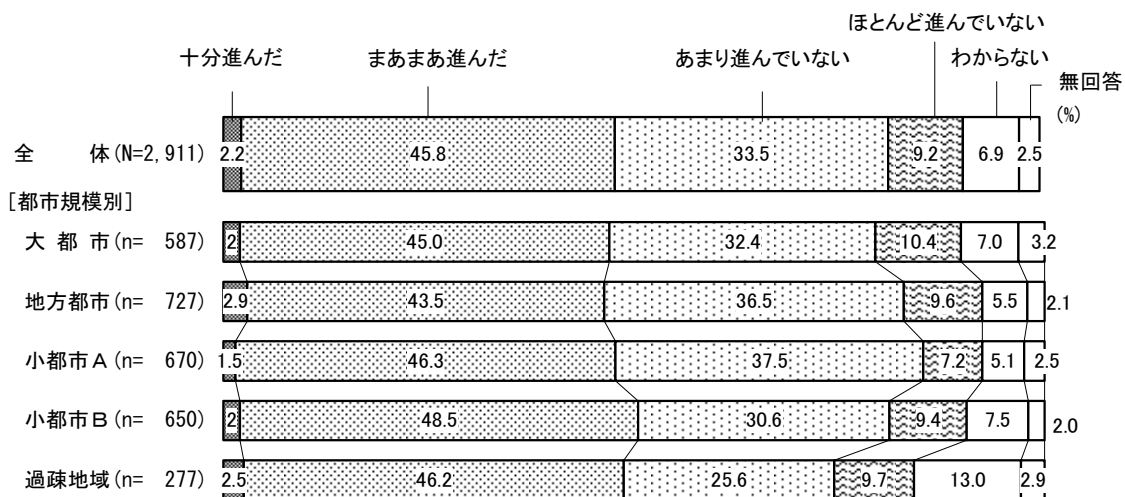
エリア別にみると、「進んだ」が多いのは、北海道・東北（「進んだ」46.2%、「進んでいない」44.1%、以下同様）、関東甲信越北陸（49.9%、41.9%）、近畿（45.0%、43.4%）、九州（53.8%、38.0%）で、「進んでいない」が多いのは中部（44.6%、45.0%）、中国・四国（44.5%、45.3%）となっている（図表Ⅱ-3-2-③）。

都市規模別にみると、全ての都市規模で「進んだ」が多くなっており、多い方から順に小都市B（「進んだ」50.5%、「進んでいない」40.0%、以下同様）、過疎地域（48.7%、35.3%）、小都市A（47.8%、44.7%）となっている（図表Ⅱ-3-2-④）。

図表Ⅱ-3-2-③ 5年前と比較してのバリアフリー化の進展－建築物（全体、エリア別）



図表Ⅱ-3-2-④ 5年前と比較してのバリアフリー化の進展－建築物（全体、都市規模別）



<公共交通機関>

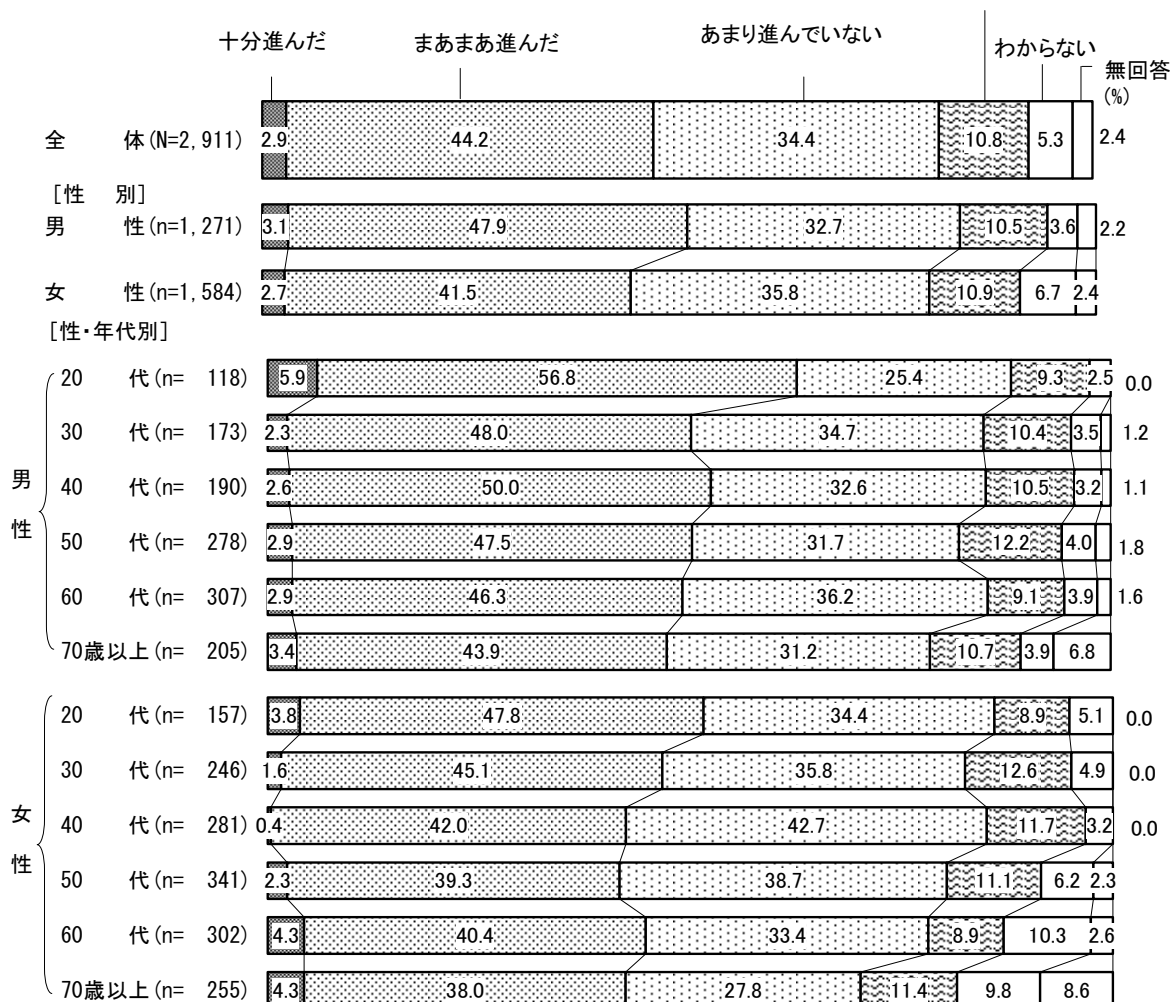
① 全体及び性・年代別の結果

公共交通機関については、5年ほど前と比較して「進んだ」が47.1%（「十分進んだ」2.9%、「まあまあ進んだ」44.2%の計、以下同様）、「進んでいない」が45.2%（「あまり進んでいない」34.4%、「ほとんど進んでいない」10.8%の計、以下同様）となっている（図表Ⅱ-3-3-①全体）。

性別に見ると、男性は「進んだ」が多く51.0%で、「進んでいない」の43.2%を7.8ポイント上回っており、女性は「進んでいない」が多く46.7%で、「進んだ」の44.2%を2.5ポイント上回っている（図表Ⅱ-3-3-①性別）。

性・年代別に見ると、「進んだ」と「進んでいない」の比較で「進んだ」が多いのは、多い順に男性20代（「進んだ」62.7%、「進んでいない」34.7%、以下同様）、男性40代（52.6%、43.1%）、女性20代（51.6%、43.3%）で、「進んでいない」が多いのは、多い順に女性40代（42.4%、54.4%）、女性50代（41.6%、49.8%）、女性30代（46.7%、48.4%）となっている（図表Ⅱ-3-3-①性・年代別）。

図表Ⅱ-3-3-① 5年前と比較してのバリアフリー化の進展—公共交通機関（全体、性別、性・年代別）



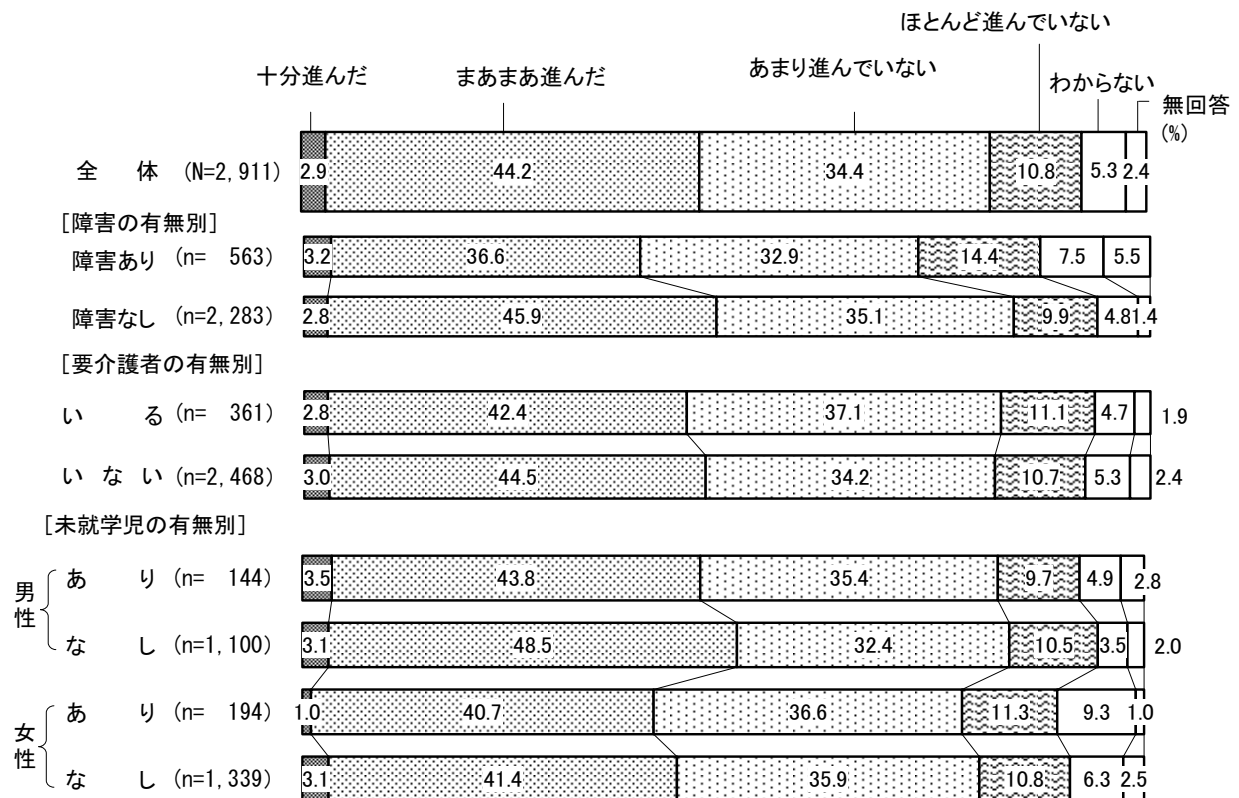
② 障害・要介護者・未就学児の有無別の結果

障害の有無別にみると、障害ありは「進んでいない」が多く47.3%（「あまり進んでいない」32.9%、「ほとんど進んでいない」14.4%の計、以下同様）で、「進んだ」は39.8%（「十分進んだ」3.2%、「まあまあ進んだ」36.6%の計、以下同様）であり、障害なしは「進んだ」が多く48.7%、「進んでいない」39.7%となっている（図表Ⅱ-3-2-②障害の有無別）。

要介護者の有無別にみると、要介護者がいる場合は「進んでいない」が48.2%と多く、「進んだ」は45.2%なのに対し、いない場合「進んだ」が多く47.5%、「進んでいない」44.9%となっている（図表Ⅱ-3-2-②要介護者の有無別）。

性・未就学児の有無別にみると、「進んだ」と「進んでいない」の比較で「進んだ」が多いのは、多い順に男性・なし（「進んだ」51.6%、「進んでいない」42.9%、以下同様）、男性・あり（47.3%、45.1%）で、「進んでいない」が多いのは、女性・あり（41.7%、47.9%）、女性・なし（44.5%、46.7%）となっている（図表Ⅱ-3-2-②未就学児の有無別）。

図表Ⅱ-3-2-② 5年前と比較してのバリアフリー化の進展—公共交通機関
（全体、障害の有無別、要介護者の有無別、未就学児の有無別）

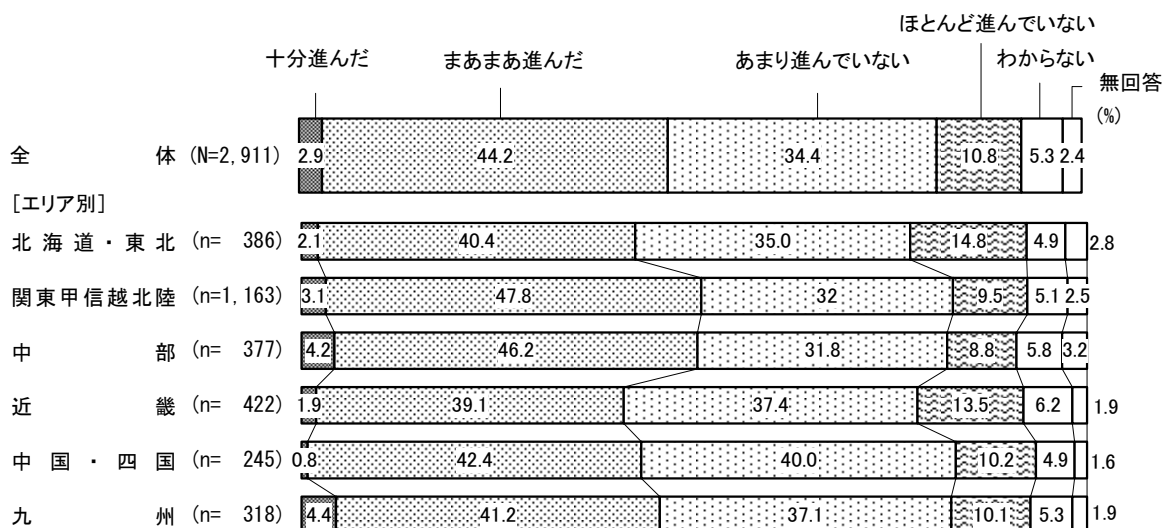


③ エリア別、都市規模別の結果

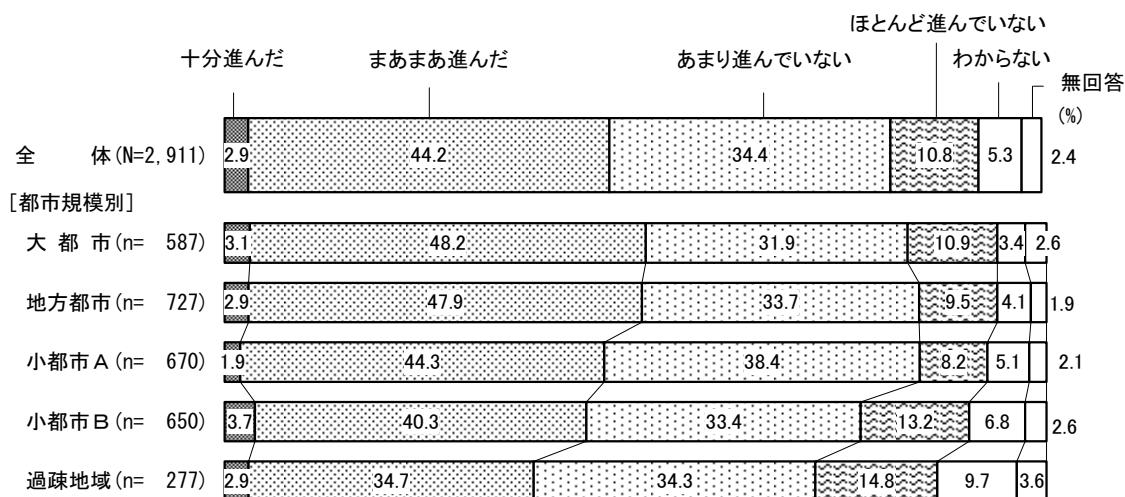
エリア別にみると、「進んだ」が多いのは、関東甲信越北陸（「進んだ」50.9%、「進んでいない」41.5%、以下同様）、中部（50.4%、40.6%）で、「進んでいない」が多いのは北海道・東北（42.5%、49.8%）、近畿（41.0%、50.9%）、中国・四国（43.2%、50.2%）、九州（45.6%、47.2%）となっている（図表Ⅱ－3－2－③）。

都市規模別にみると、「進んだ」が多いのは、大都市（「進んだ」51.3%、「進んでいない」42.8%、以下同様）、地方都市（50.8%、43.2%）で、「進んでいない」が多いのは小都市A（46.2%、46.6%）、小都市B（44.0%、46.6%）、過疎地域（37.6%、49.1%）となっている（図表Ⅱ－3－2－④）。

図表Ⅱ－3－2－③ 5年前と比較してのバリアフリー化の進展－公共交通機関（全体、エリア別）



図表Ⅱ－3－2－④ 5年前と比較してのバリアフリー化の進展－公共交通機関（全体、都市規模別）



<まちづくり>

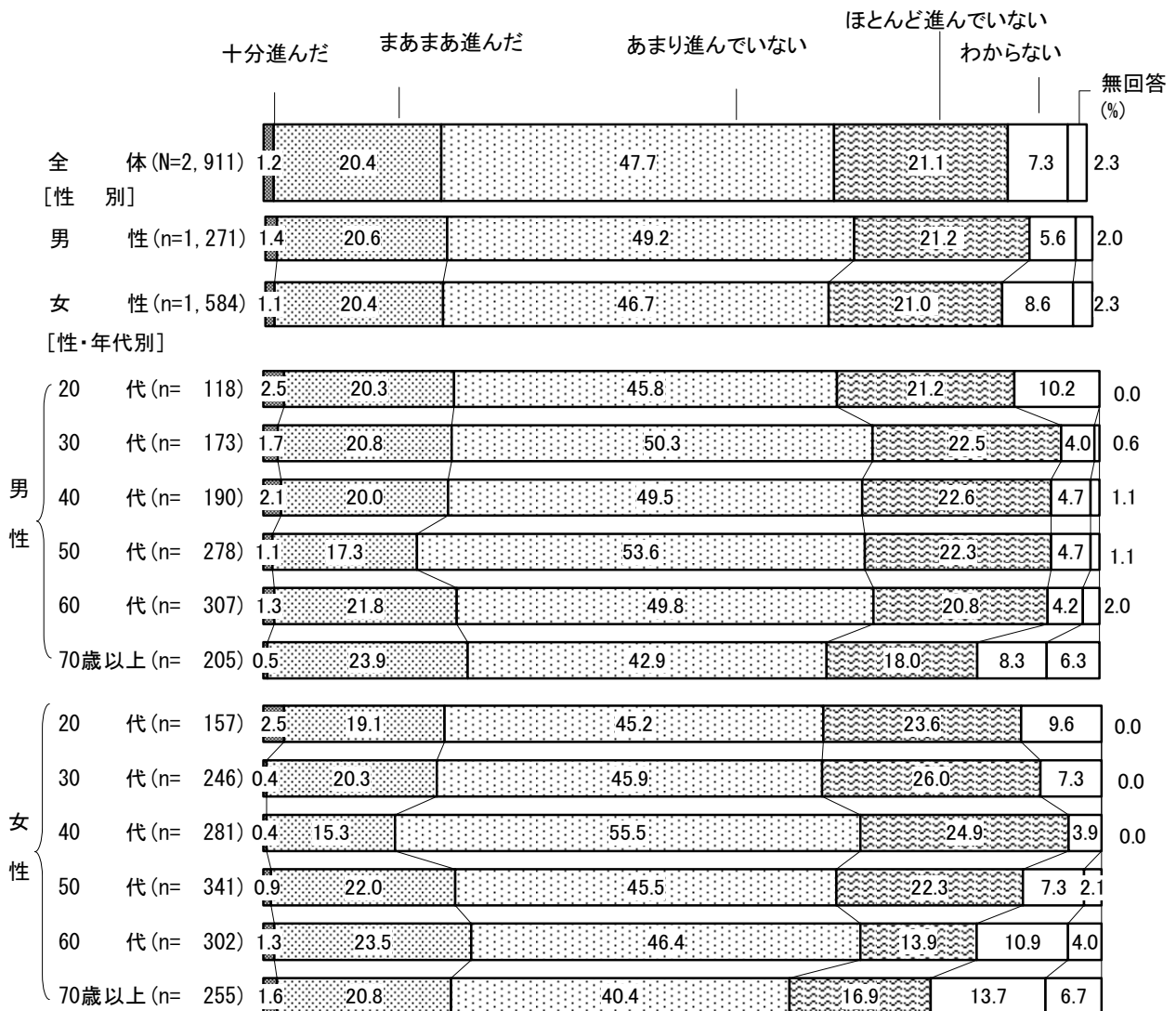
① 全体及び性・年代別の結果

まちづくりについては、5年ほど前と比較して「進んだ」が21.6%（「十分進んだ」1.2%、「まあまあ進んだ」20.4%の計、以下同様）、「進んでいない」が68.8%（「あまり進んでいない」47.7%、「ほとんど進んでいない」21.1%の計、以下同様）で、「進んでいない」が大きく上回っている（図表Ⅱ-3-3-①全体）。

性別にみると、男性は「進んでいない」が70.4%で、女性67.7%を2.7ポイント上回っている（図表Ⅱ-3-3-①性別）。

性・年代別にみると、「進んでいない」が最も多いのは女性40代80.4%で、男性50代75.9%、男性30代72.8%、男性40代72.1%と続いている（図表Ⅱ-3-3-①性・年代別）。

図表Ⅱ-3-3-① 5年前と比較してのバリアフリー化の進展—まちづくり（全体、性別、性・年代別）



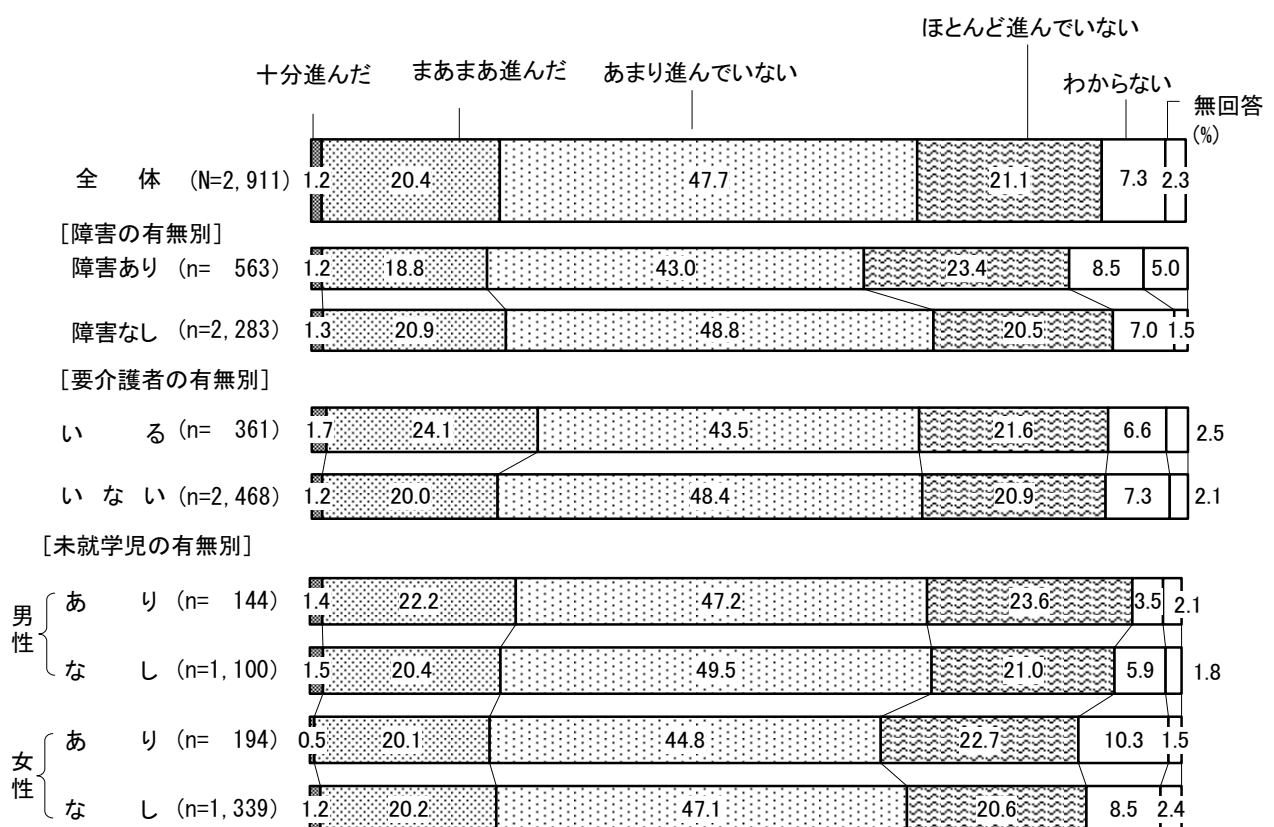
② 障害・要介護者・未就学児の有無別の結果

障害の有無別にみると、障害ありは「進んだ」20.0%（「十分進んだ」1.2%、「まあまあ進んだ」18.8%の計、以下同様）、「進んでいない」66.4%（「あまり進んでいない」43.0%、「ほとんど進んでいない」23.4%の計、以下同様）で、障害なしは「進んだ」22.2%、「進んでいない」69.3%となっており、障害あり、なしとも「進んでいない」が「進んだ」を40ポイント以上上回っている。（図表Ⅱ－3－3－②障害の有無別）。

要介護者の有無別にみると、いないの方が「進んでいない」が多く69.3%、いるは65.1%となっている（図表Ⅱ－3－3－②要介護者の有無別）。

性・未就学児の有無別にみると、「進んでいない」が多い順に男性・あり70.8%、男性・なし70.5%、女性・なし67.8%、女性・あり67.5%となっている（図表Ⅱ－3－3－②未就学児の有無別）。

図表Ⅱ－3－3－② 5年前と比較してのバリアフリー化の進展—まちづくり
（全体、障害の有無別、要介護者の有無別、未就学児の有無別）

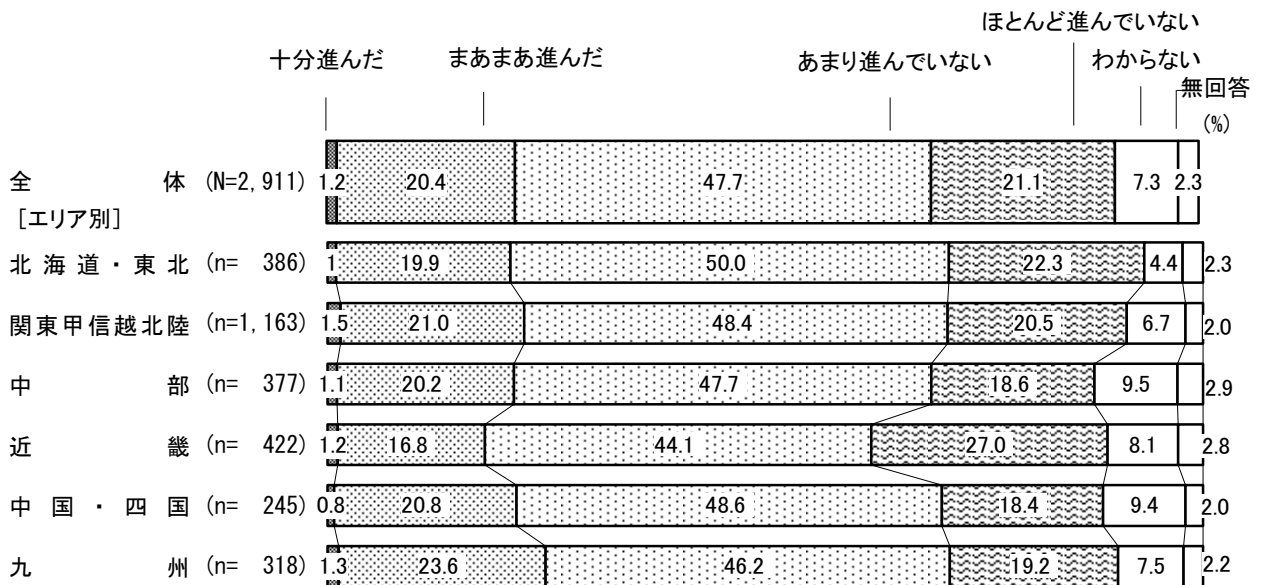


③ エリア別、都市規模別の結果

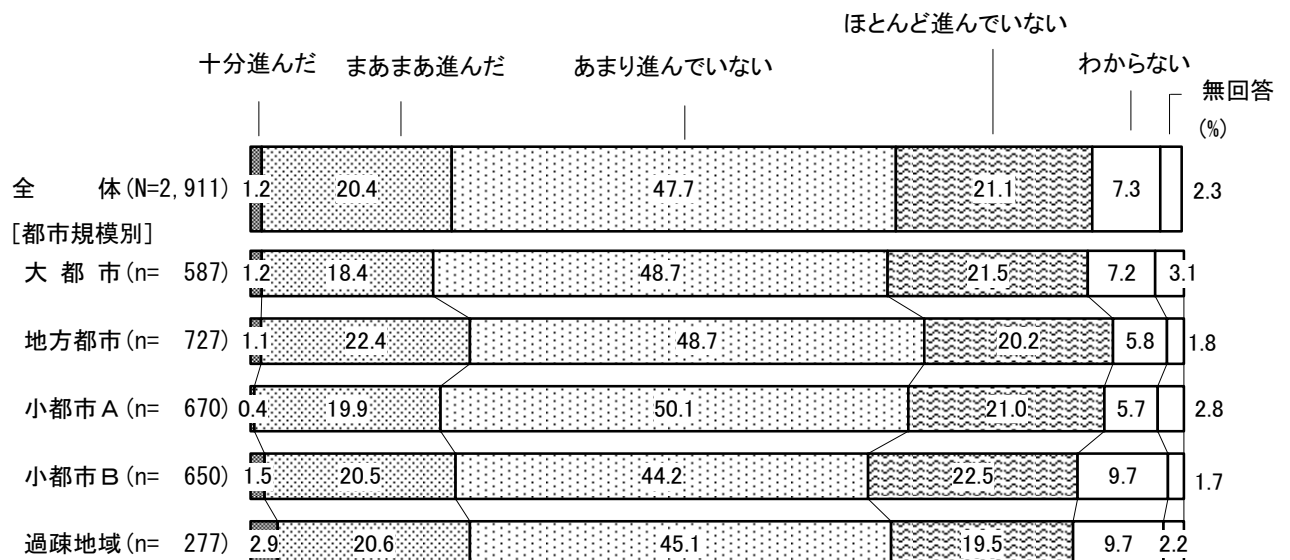
エリア別にみると、「進んでいない」が最も多いのは北海道・東北 72.3%（「あまり進んでいない」50.0%、「ほとんど進んでいない」22.3%の計、以下同様）で、次いで近畿 71.1%、関東甲信越北陸 68.9%、中国・四国 67.0%となっている（図表Ⅱ－3－3－③）。

都市規模別にみると、「進んでいない」が最も多いのは小都市A 71.1%で、次いで大都市 70.2%、地方都市 68.9%、小都市B 66.7%、過疎地域 64.6%となっている（図表Ⅱ－3－3－④）。

図表Ⅱ－3－3－③ 5年前と比較してのバリアフリー化の進展－まちづくり（全体、エリア別）



図表Ⅱ－3－3－④ 5年前と比較してのバリアフリー化の進展－まちづくり（全体、都市規模別）



<情報・各種製品>

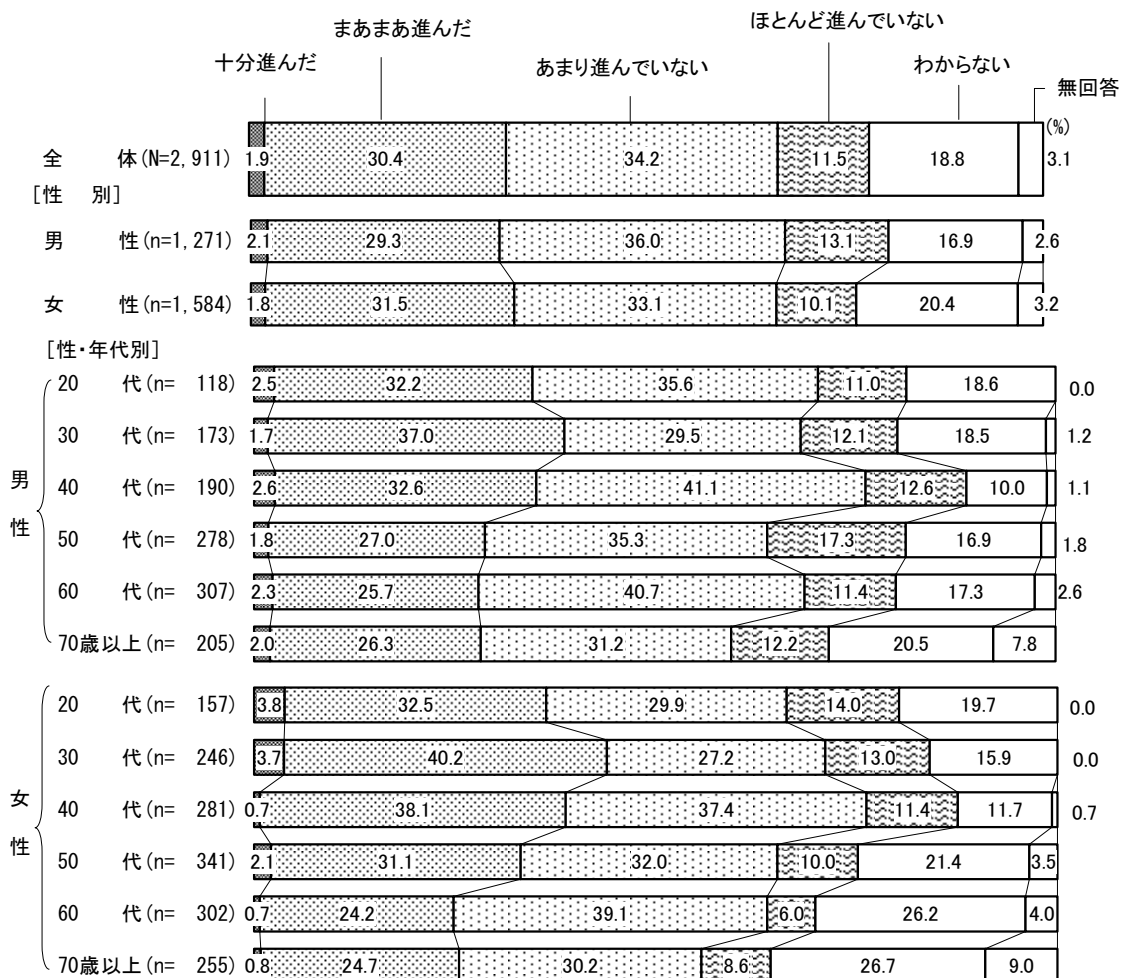
① 全体及び性・年代別の結果

情報・各種製品については、5年ほど前と比較して、「進んだ」が32.3%（「十分進んだ」1.9%、「まあまあ進んだ」30.4%の計、以下同様）、「進んでいない」が46.7%（「あまり進んでいない」34.2%、「ほとんど進んでいない」11.5%の計、以下同様）となっている（図表Ⅱ-3-4-①全体）。

性別にみると、男女ともに「進んでいない」が多く、男性は49.1%、女性は43.2%となっている。また、女性は20.4%が「わからない」と回答している（図表Ⅱ-3-4-①性別）。

性・年代別にみると、男性は全年代で「進んでいない」が多く、多い順に40代53.7%、50代52.6%、60代52.1%で、一方「進んだ」の回答は30代38.7%、40代35.2%、20代34.7%の順となっている。女性は30代を除いて「進んでいない」が多く、多い順に40代48.8%、60代45.1%、20代43.9%となっている。また、女性の70歳以上26.7%、60代26.2%、50代21.4%、男性の70歳以上20.5%が「わからない」と回答している。

図表Ⅱ-3-4-① 5年前と比較してのバリアフリー化の進展—情報・各種製品（全体、性別、性・年代別）



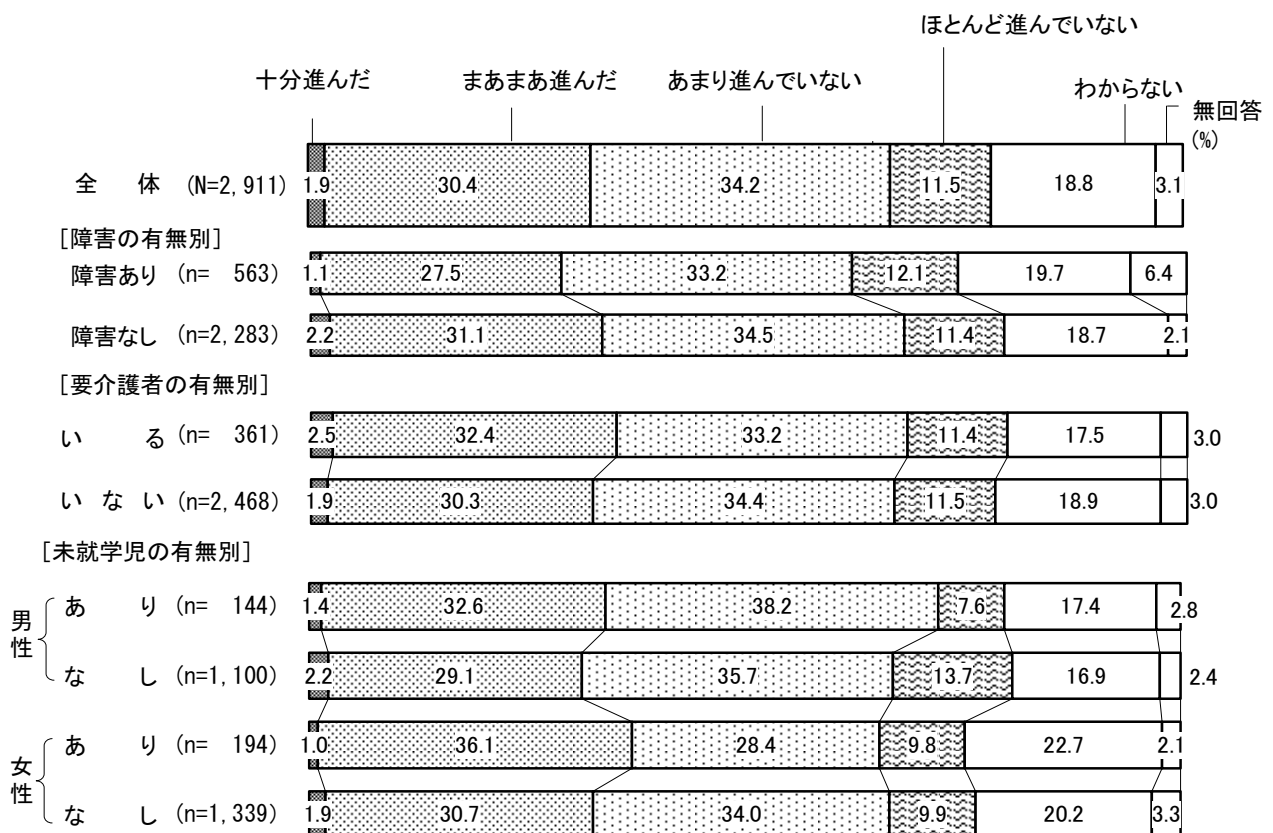
② 障害・要介護者・未就学児の有無別の結果

障害の有無別にみると、障害あり、なしともに「進んでいない」が「進んだ」を10ポイント以上上回っている。また、「進んだ」は障害あり28.6%（「十分進んだ」1.1%、「まあまあ進んだ」27.5%の計、以下同様）が、障害なし33.3%を5ポイント弱下回っており、「進んでいない」は障害ありとなしでほぼ同じ（45～46%）となっている（図表Ⅱ-3-4-②障害の有無別）。

要介護者の有無別にみると、いる、いないともに「進んでいない」が多く、いない場合は45.9%、いる場合は44.6%が進んでいないと回答している（図表Ⅱ-3-4-②要介護者の有無別）。

性・未就学児の有無別にみると、男・女ともに未就学児のあり・なしにかかわらず「進んでいない」が「進んだ」を上回っている。また「進んでいない」が最も多いのは男性・なしで49.4%、「進んだ」が最も多いのは女性・ありで37.1%となっている（図表Ⅱ-3-4-②未就学児の有無別）。

図表Ⅱ-3-4-② 5年前と比較してのバリアフリー化の進展—情報・各種製品
（全体、障害の有無別、要介護者の有無別、未就学児の有無別）

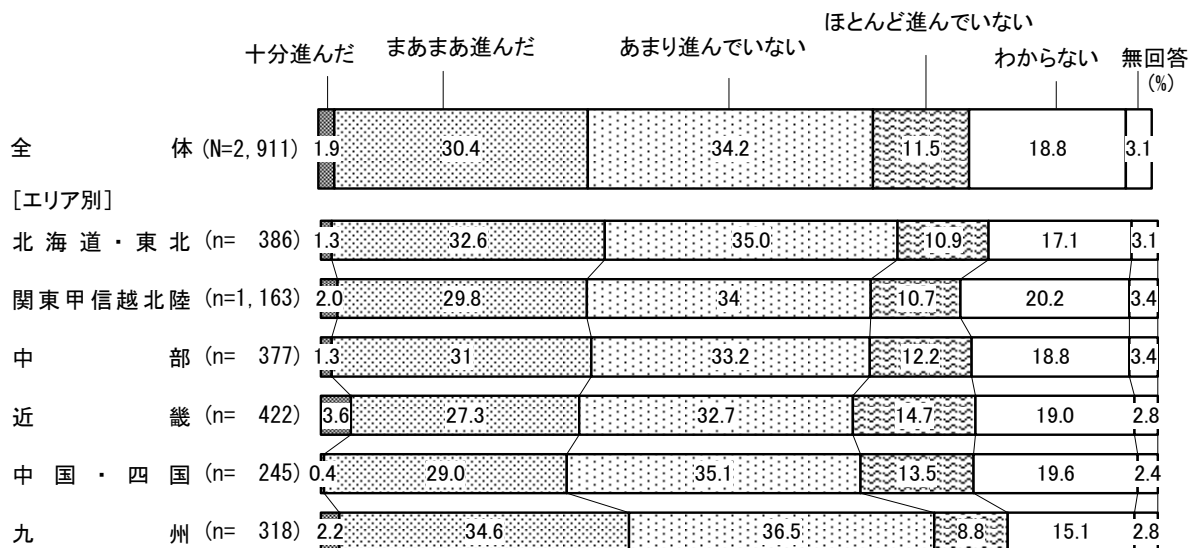


③ エリア別、都市規模別の結果

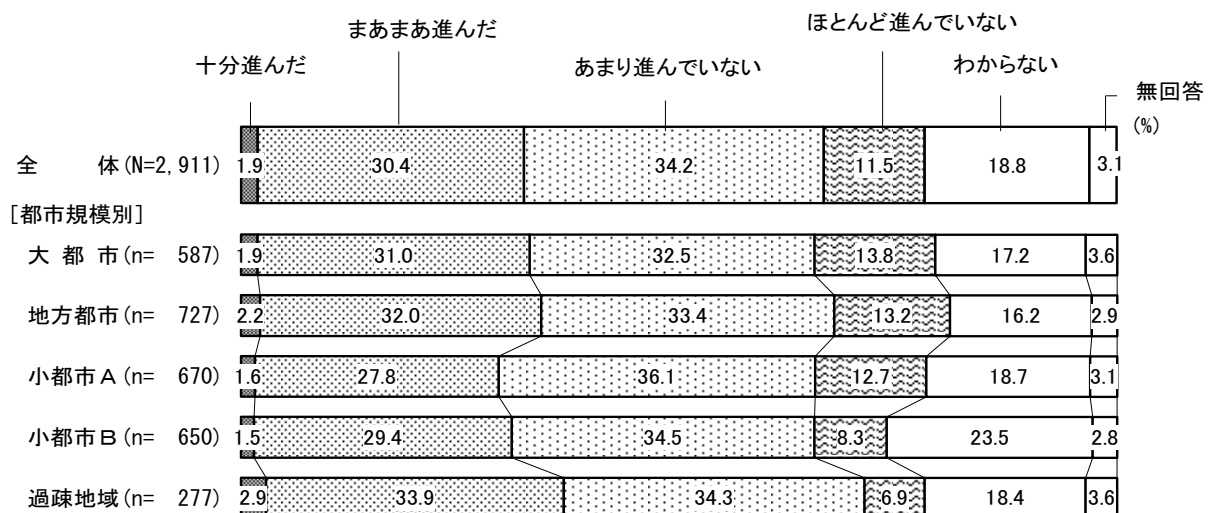
エリア別にみると、全てのエリアで「進んでいない」が多く、多い順に中国・四国 48.6%（「あまり進んでいない」35.1%、「ほとんど進んでいない」13.5%の計、以下同様）、近畿 47.4%、北海道・東北 45.9%、中部 45.4%となっている。「進んだ」が比較的多いのは北海道・東北 33.9%、九州 36.8%である（図表Ⅱ－3－4－③）。

都市規模別にみると、全ての都市規模で「進んでいない」が多く、多い順に小都市A 48.8%、地方都市 46.6%、大都市 46.3%、小都市B 42.8%となっている。「進んだ」が比較的多いのは、地方都市 34.2%、過疎地域 36.8%である（図表Ⅱ－3－4－④）。

図表Ⅱ－3－4－③ 5年前と比較してのバリアフリー化の進展—情報—各種製品（全体、エリア別）



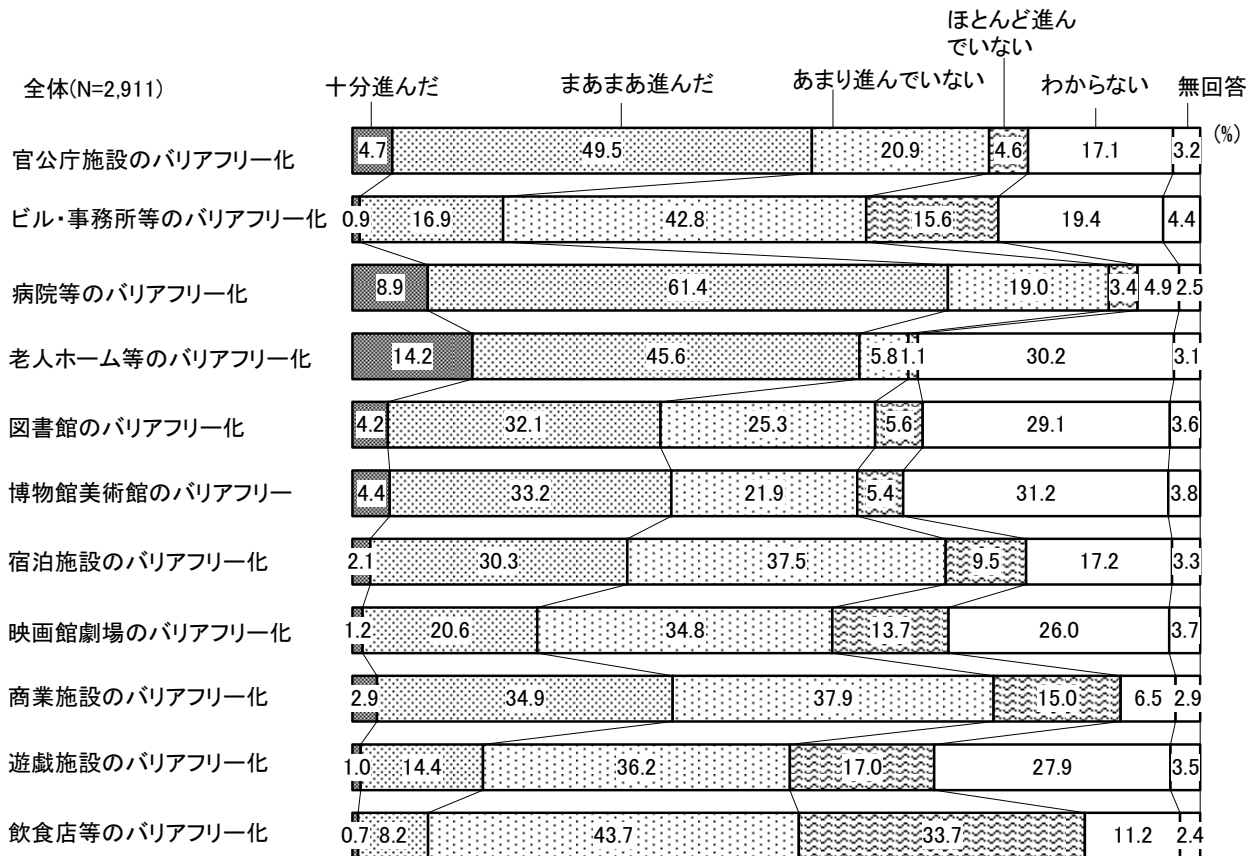
図表Ⅱ－3－4－④ 5年前と比較してのバリアフリー化の進展—情報—各種製品（全体、都市規模別）



(3) 建築物についてのバリアフリー化の進展 (問6)

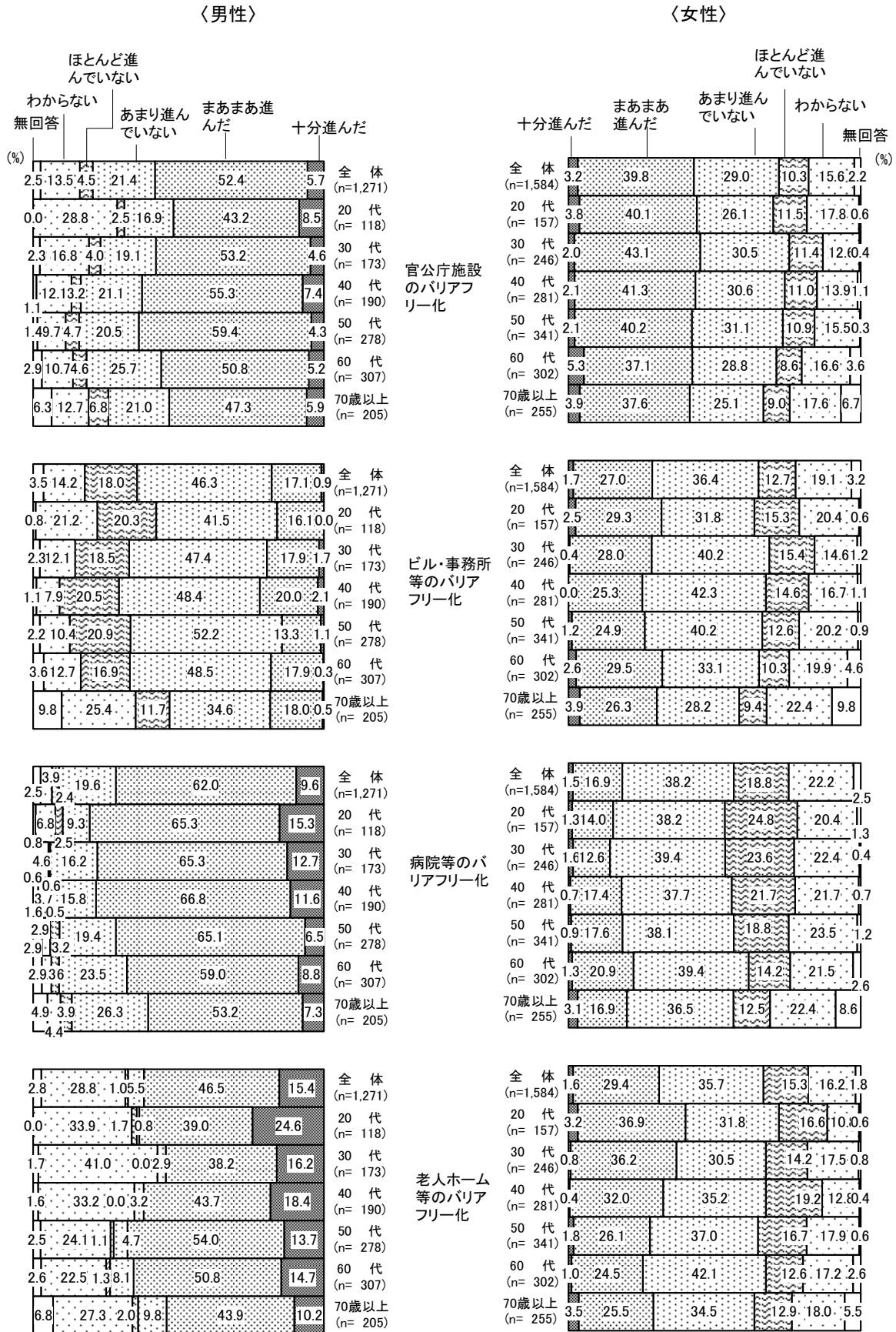
建築物のバリアフリー化の進展を施設の種別別にみると、施設によって「進んだ」(「十分進んだ」と「まあまあ進んだ」の計、以下同様)、「進んでいない」(「ほとんど進んでいない」と「あまり進んでいない」の計、以下同様)の評価に大きな差がある。「進んだ」が最も多いのは「病院等」の70.3%で、「老人ホーム等」59.8%、「官公庁施設」54.2%と続いている。また、「進んでいない」が最も多いのは「飲食店等」の77.4%で、次いで「ビル、事務所等」58.4%、「遊戯施設」53.2%となっている(図表Ⅱ-3-3-①)。

図表Ⅱ-3-3-① 建築物についてのバリアフリー化の進展 (全体)

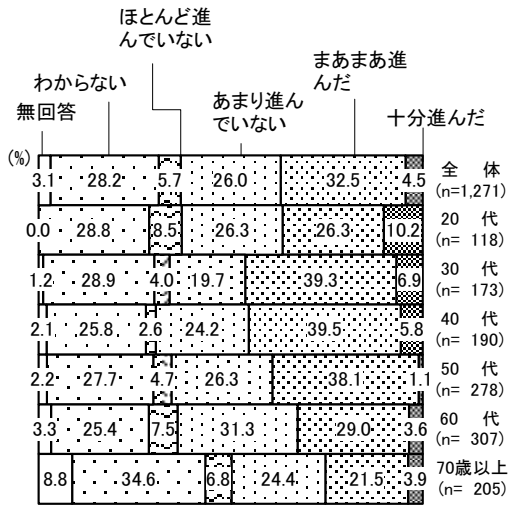


- 施設の種類のバリアフリー化の進展について、性別及び性・年代別にみる。
- ＜官公庁施設＞ 「進んだ」は男性が 57.1%と多く、「進んでいない」は男女ほぼ同じ約 25%である。性・年代別にみると、男女とも 20 代の「わからない」の多さが目立っているが、それ以外は年代による大きな差はみられない（図表Ⅱ－3－3－②官公庁施設）。
 - ＜ビル・事務所等＞ 「進んだ」は男女ほぼ同じ約 18%で、「進んでいない」は男性 66.3%、女性 54.1%となっており、「進んでいない」が多くなっている（図表Ⅱ－3－3－②ビル・事務所等）。
 - ＜病院等＞ 性別に見ると、男女とも「進んだ」が約 70%と多くなっている。性・年代別に見ると、男女ともに概ね年代が上がるほど「進んだ」が少なく、「進んでいない」が多くなる傾向がみられる（図表Ⅱ－3－3－②病院等）。
 - ＜老人ホーム等＞ 男女ともに「わからない」が比較的多いものの、全体としては「進んでいる」が多くなっている（図表Ⅱ－3－3－②老人ホーム等）。
 - ＜図書館＞ 男女ともに「わからない」が比較的多くなっている。性・年代別に見ると、男女とも 20 代と 60 代以上の「進んだ」が若干少なくなっている（図表Ⅱ－3－3－②図書館）。
 - ＜博物館美術館＞ 男女ともに「わからない」が比較的多くなっている。性・年代別にみると、男性の 40 代で「進んだ」が 48.9%と多くなっているのをはじめ、年代による差があるが、女性の場合は年代による大きな差がないことが特徴となっている（図表Ⅱ－3－3－②博物館美術館）。
 - ＜宿泊施設＞ 男性に比べ女性の方が「進んだ」が多くなっている。性・年代別にみると、女性は全体的に「わからない」と回答する人が多くなっている（図表Ⅱ－3－3－②宿泊施設）。
 - ＜映画館劇場＞ 男女ともに「進んでいない」が「進んだ」を大きく上回る結果となっている。性・年代別にみると、男女とも若い年代の方が「進んだ」が多く、年代が上がるに従って「わからない」が多くなっている（図表Ⅱ－3－3－②映画館劇場）。
 - ＜商業施設＞ 男女ともに「進んでいない」が「進んだ」を上回る結果となっている。性・年代別にみると、男女とも年代による差はあまりないが、女性 40 代で「進んだ」が 30.6%と少なくなっている（図表Ⅱ－3－3－②商業施設）。
 - ＜遊戯施設＞ 男女ともに「進んだ」約 15%、「進んでいない」約 60%となっている。性・年代別にみると、女性は年代が上がるほど「わからない」が多くなる傾向がある（図表Ⅱ－3－3－②遊戯施設）。
 - ＜飲食店等＞ 男女ともに全ての年代で「進んでいない」が非常に多くなっている（図表Ⅱ－3－3－②飲食店等）。

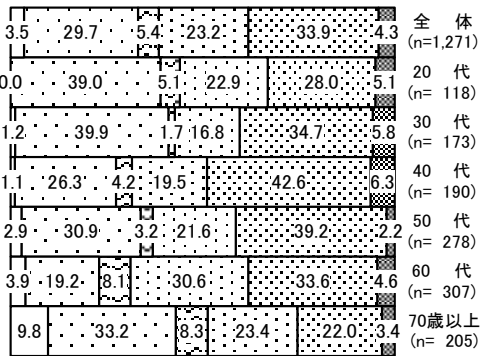
図表Ⅱ-3-3-② 建築物についてのバリアフリー化の進展（全体、性・年代別）



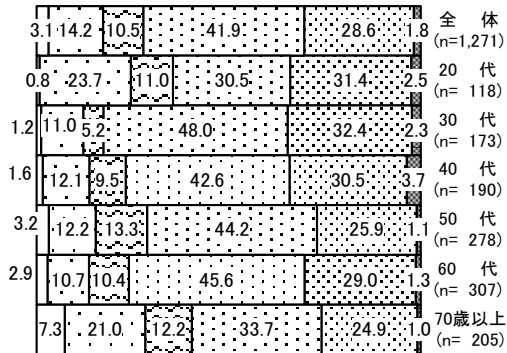
〈男性〉



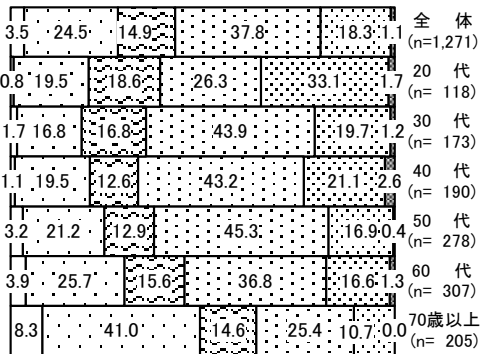
図書館のバリアフリー化



博物館美術館のバリアフリー化

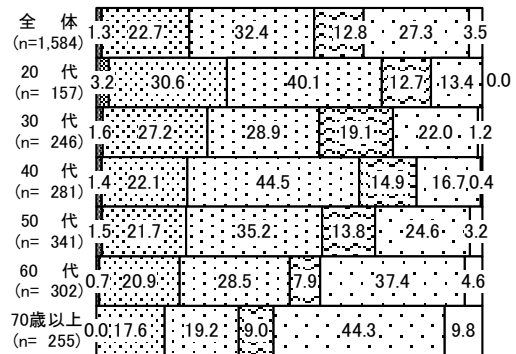
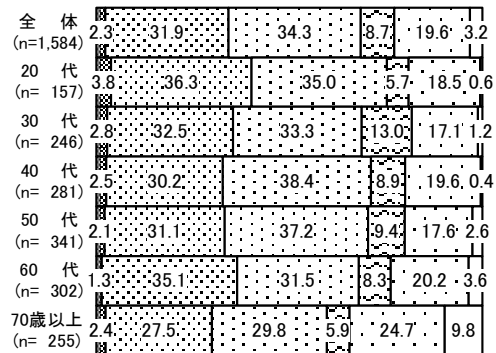
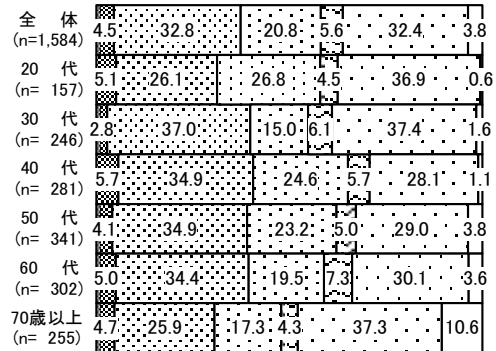
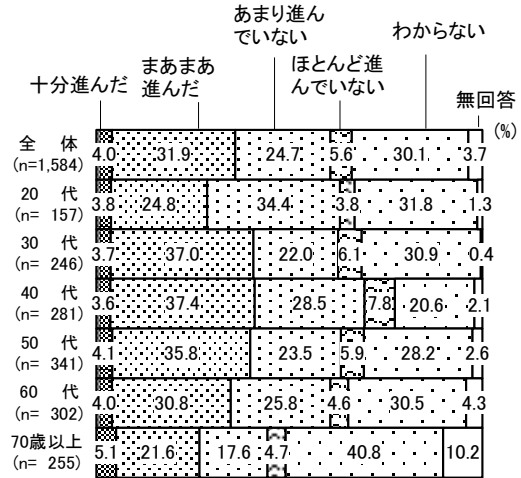


宿泊施設のバリアフリー化



映画館劇場のバリアフリー化

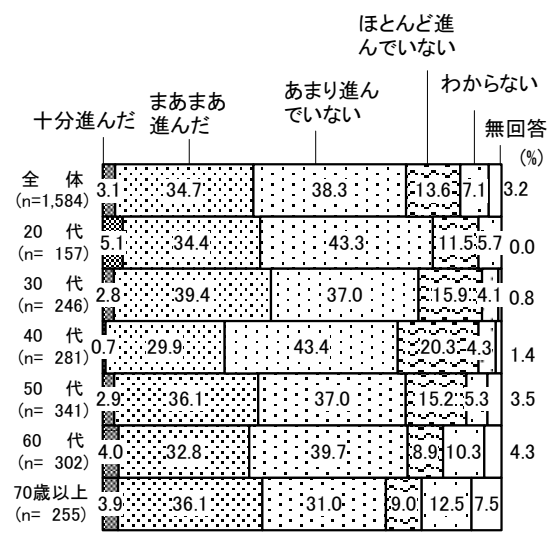
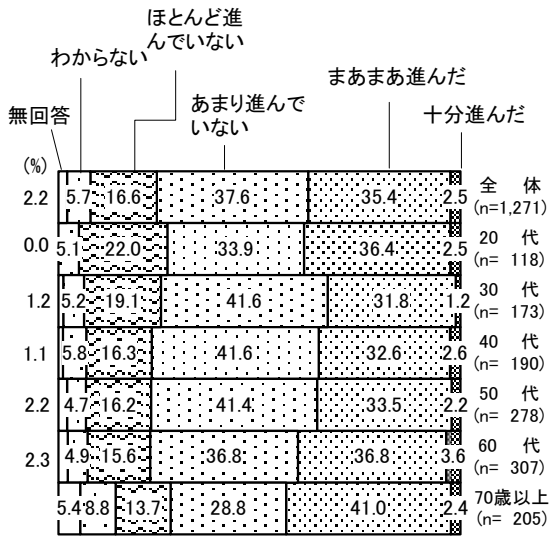
〈女性〉



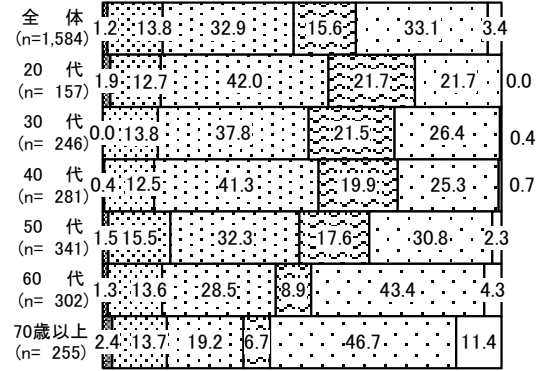
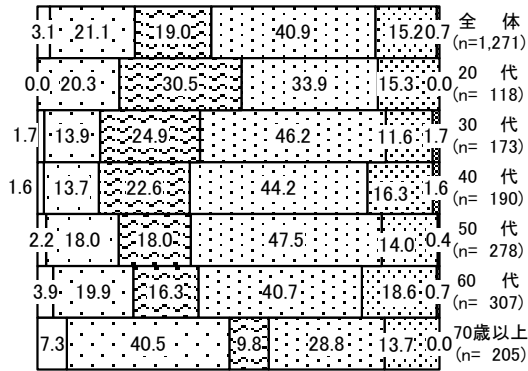
II バリアフリー化推進に関する国民意識調査について

〈男性〉

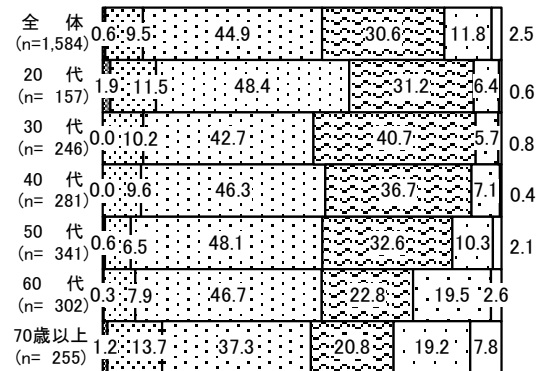
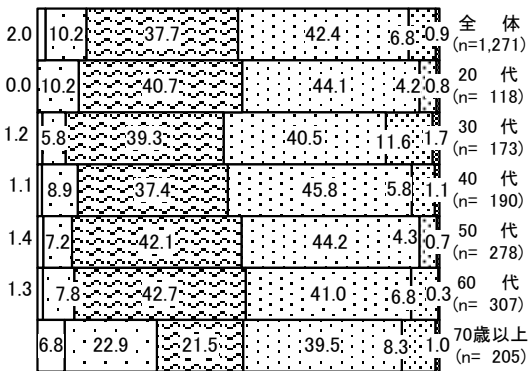
〈女性〉



商業施設のバリアフリー化



遊戯施設のバリアフリー化

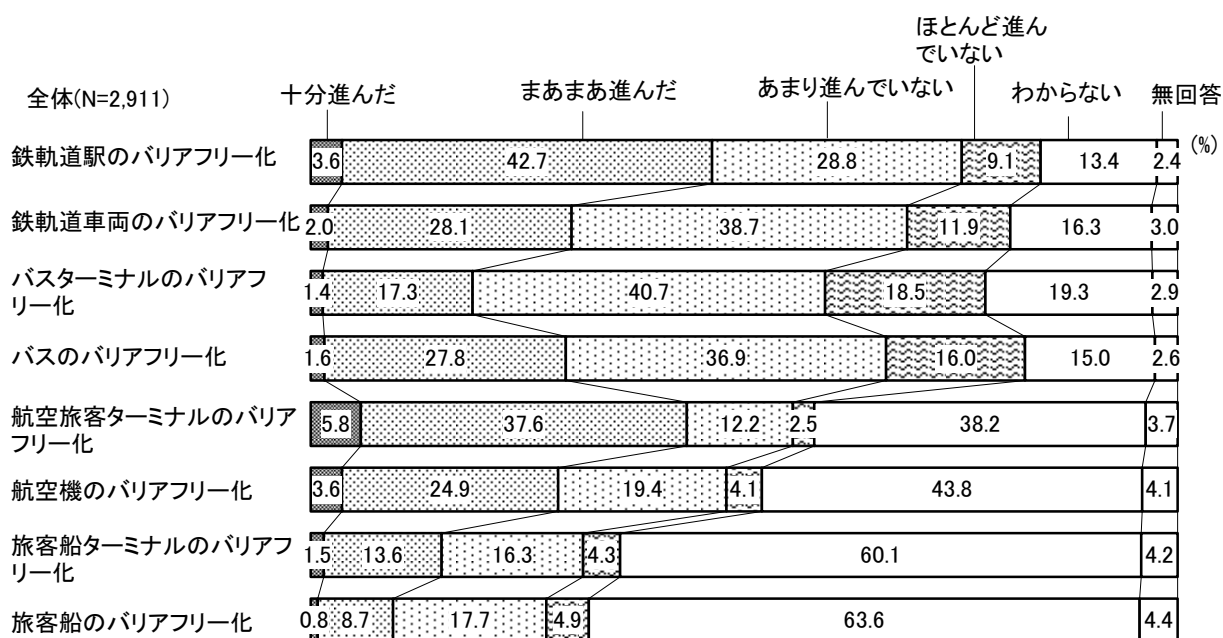


飲食店等のバリアフリー化

(4) 公共交通機関についてのバリアフリー化の進展 (問7)

公共交通機関のバリアフリー化の進展を種類別にみると、駅・ターミナル関係では、「進んだ」が最も多いのは「鉄軌道駅」46.3%で、「航空旅客ターミナル」43.4%、「バスターミナル」18.7%、「旅客船ターミナル」15.1%と続いている。乗り物別では、「進んだ」が最も多いのは「鉄軌道車両」30.1%で、「バス」29.4%、「航空機」28.5%、「旅客船」9.5%と続いている。また、航空機、旅客船関係では、「わからない」が非常に多くなっている(図表Ⅱ-3-3-①)。

図表Ⅱ-3-3-① 公共交通機関についてのバリアフリー化の進展 (全体)



公共交通機関の種類別のバリアフリー化の進展について、性別及び性・年代別にみる。

＜鉄軌道駅＞ 女性より男性の方が若干「進んだ」が多くなっているが、年代別の差はあまりない（図表Ⅱ－３－３－②鉄軌道駅）。

＜鉄軌道車両＞ 女性より男性の方が若干「進んだ」が多い結果となっている。性・年代別にみると、男女とも年代が上がるに従って「わからない」が多くなっている（図表Ⅱ－３－３－②鉄軌道車両）。

＜バスターミナル＞ 男女ともに「進んでいない」が多い結果となっている。性・年代別にみても、男女とも年代による大きな差はない（図表Ⅱ－３－３－②バスターミナル）。

＜バス＞ 男女に大きな差があるとはいえないが、性・年代別には、若い年代の「進んだ」が多く、概ね年代が上がるに従って少なくなる傾向をみることができる（図表Ⅱ－３－３－②バス）。

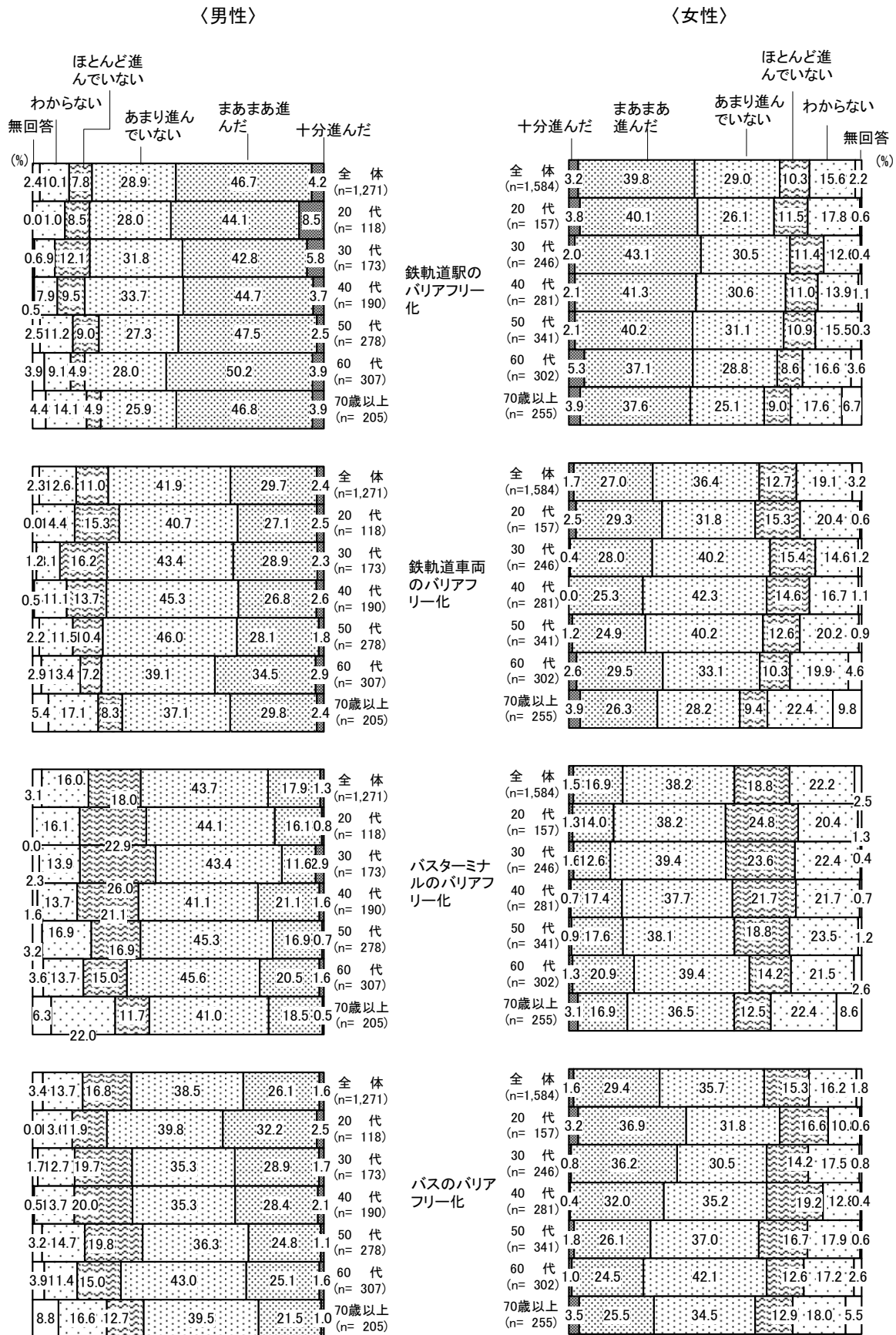
＜航空旅客ターミナル＞ 男女ともに「進んだ」が「進んでいない」を上回る結果となっている。また、全体的に「わからない」が多くなっている（図表Ⅱ－３－３－②航空旅客ターミナル）。

＜航空機＞ 男女ともに大きな差はなく、「わからない」が多くなっている（図表Ⅱ－３－３－②航空機）。

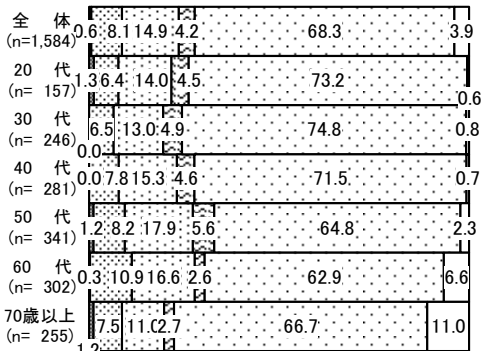
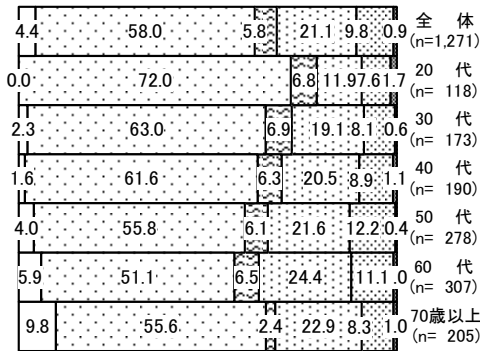
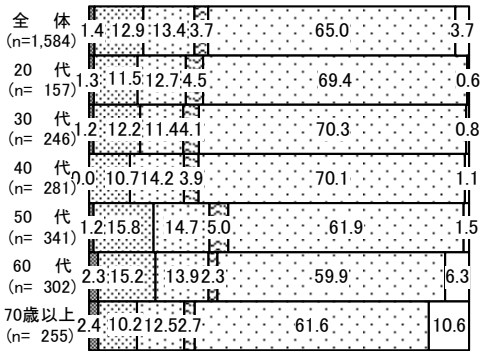
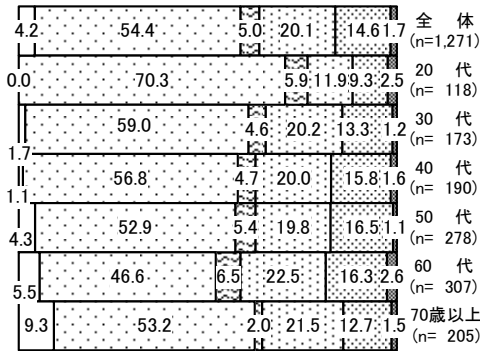
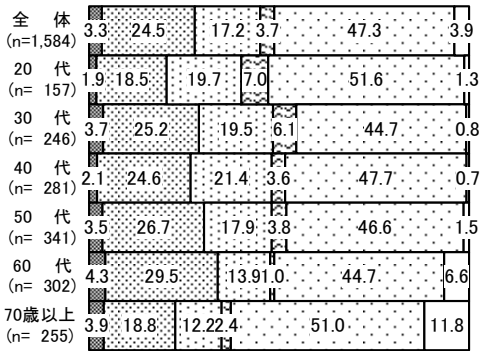
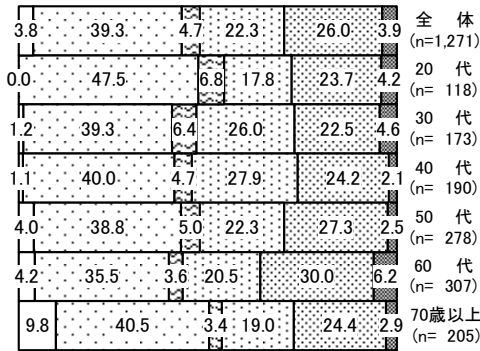
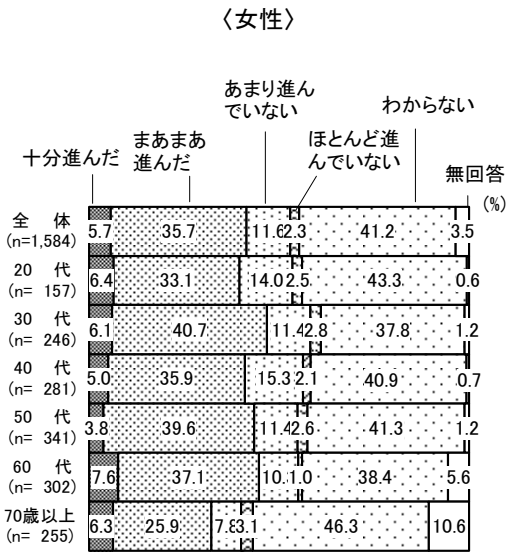
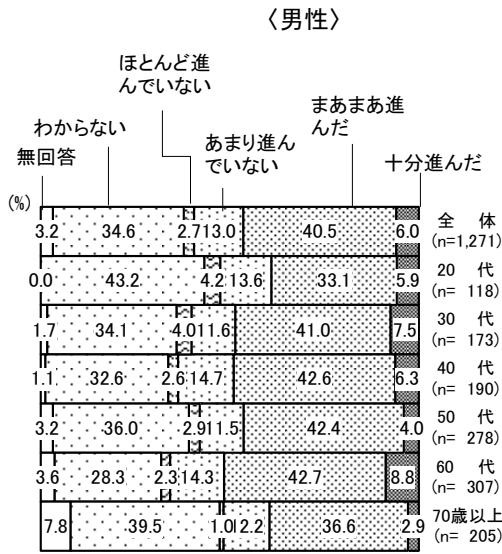
＜旅客船ターミナル＞ 男女ともに「進んでいない」が「進んだ」を上回る結果となっている。また、全体的に「わからない」が多くなっている（図表Ⅱ－３－３－②旅客船ターミナル）。

＜旅客船＞ 男女ともに「進んでいない」が「進んだ」を上回る結果となっている。また、全体的に「わからない」が多くなっている（図表Ⅱ－３－３－②旅客船）。

図表Ⅱ-3-3-② 公共交通機関についてのバリアフリー化の進展（全体、性・年代別）



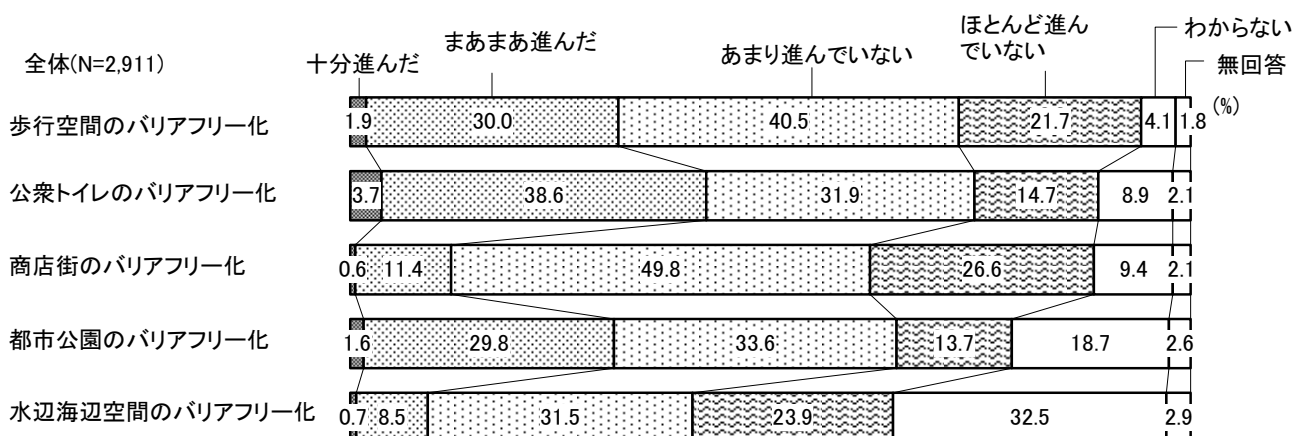
II バリアフリー化推進に関する国民意識調査について



(5) まちづくりについてのバリアフリー化の進展 (問8)

まちづくりについてのバリアフリー化の進展を空間や施設の種類別にみると、「進んだ」「進んでいない」の評価に大きな差がでている。「進んだ」が最も多いのは「公衆トイレ」42.3%で、「歩行空間」31.9%、「都市公園」31.4%、「商店街」12.0%、「水辺海辺空間」9.2%と続き、逆に「進んでいない」が最も多いのは「商店街」76.4%で、「歩行空間」62.2%、「水辺海辺空間」55.4%、「都市公園」47.3%、「公衆トイレ」46.6%と続いている(図表Ⅱ-3-3-①全体)。

図表Ⅱ-3-3-① まちづくりについてのバリアフリー化の進展 (全体)



まちづくりの種類別のバリアフリー化の進展について、性別及び性・年代別にみる。

＜歩行空間＞ 男性の方が女性より「進んだ」が多くなっている。また、性・年代別にみると、男女ともに年代が上がるに従って「進んだ」が多くなる傾向がある（図表Ⅱ－３－３－②歩行空間）。

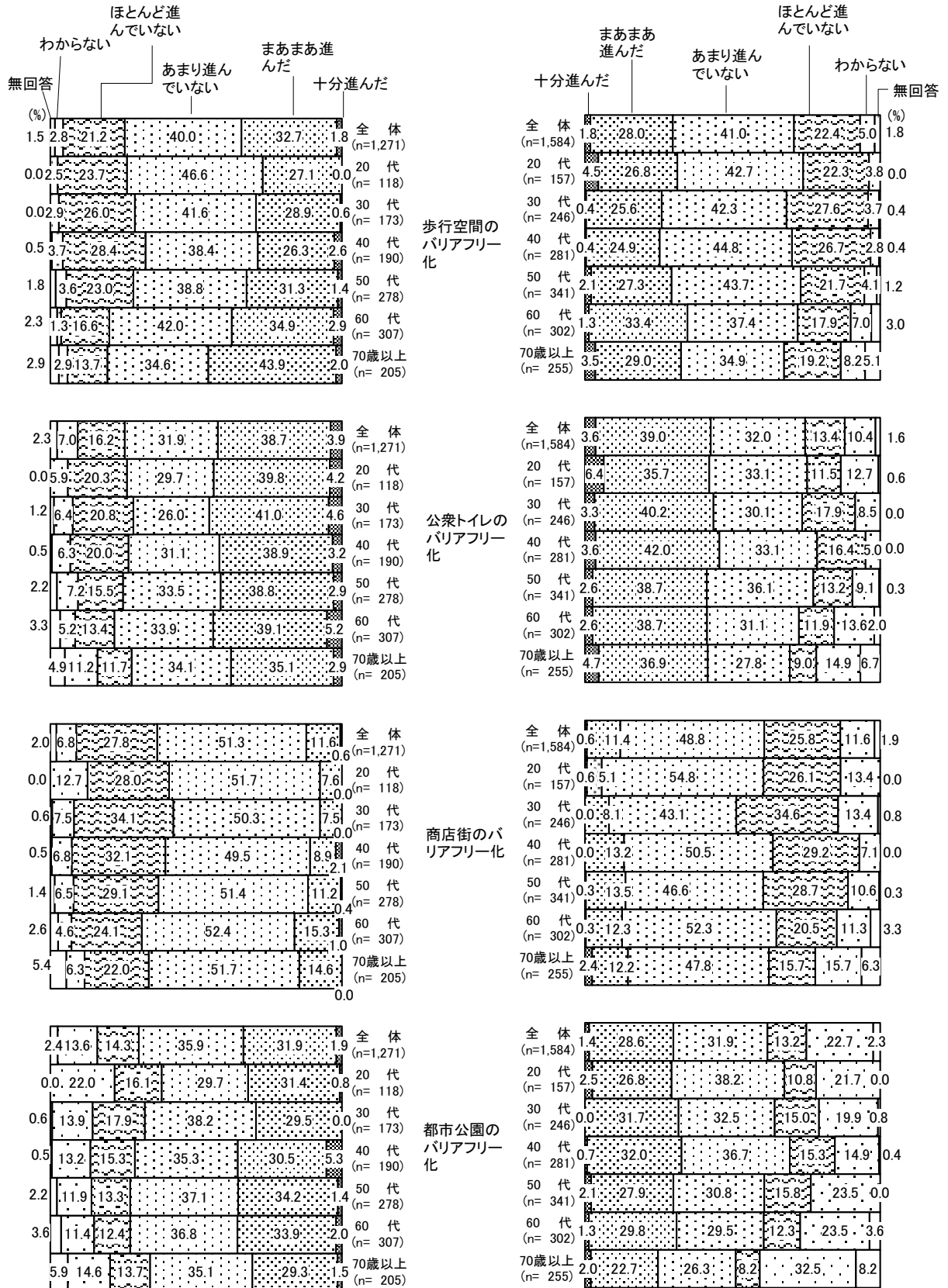
＜公衆トイレ＞ 男女ともに「進んだ」が42.6%となっており、「進んでいない」より若干少なくなっているが、年代ごとに大きな差はみられない（図表Ⅱ－３－３－②公衆トイレ）。

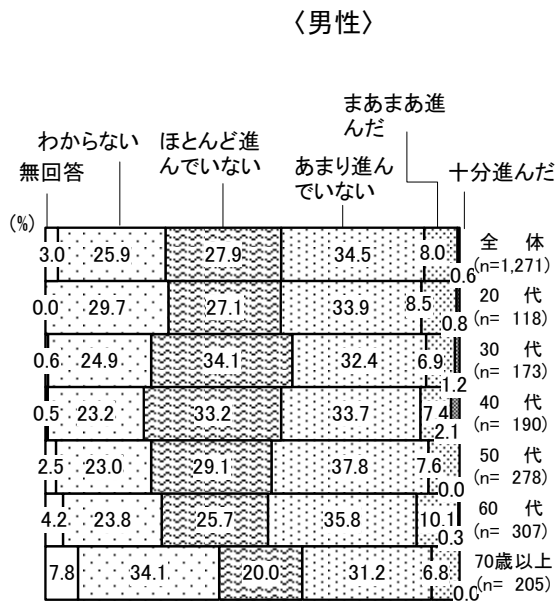
＜商店街＞ 男女ともに「進んでいない」が「進んだ」に比べて大変多くなっている。性・年代別にみると、男女とも、概ね年代が上がるに従って「進んだ」が若干多くなる傾向が見える（図表Ⅱ－３－３－②商店街）。

＜都市公園＞ 男性の方が女性より若干「進んだ」が多くなっている。性・年代別にみると、女性は年代が上がるに従って「わからない」の回答が多くなっている（図表Ⅱ－３－３－②都市公園）。

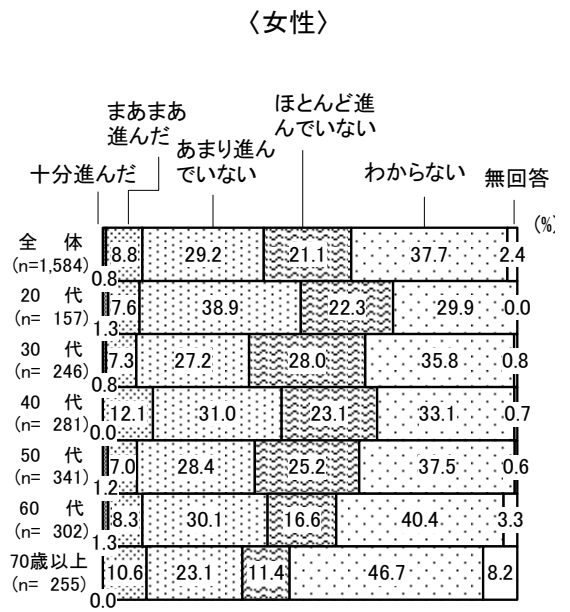
＜水辺海辺空間＞ 男女ともに「進んでいない」が「進んだ」に比べて大変多くなっている。性・年代別にみると、男女ともに「進んだ」は約10%で年代によって大きな差はみられないものの、女性は年代が上がるに従って「わからない」が多くなっている（図表Ⅱ－３－３－②水辺海辺空間）。

図表Ⅱ-3-3-② まちづくりについてのバリアフリー化の進展（全体、性・年代別）
 〈男性〉 〈女性〉





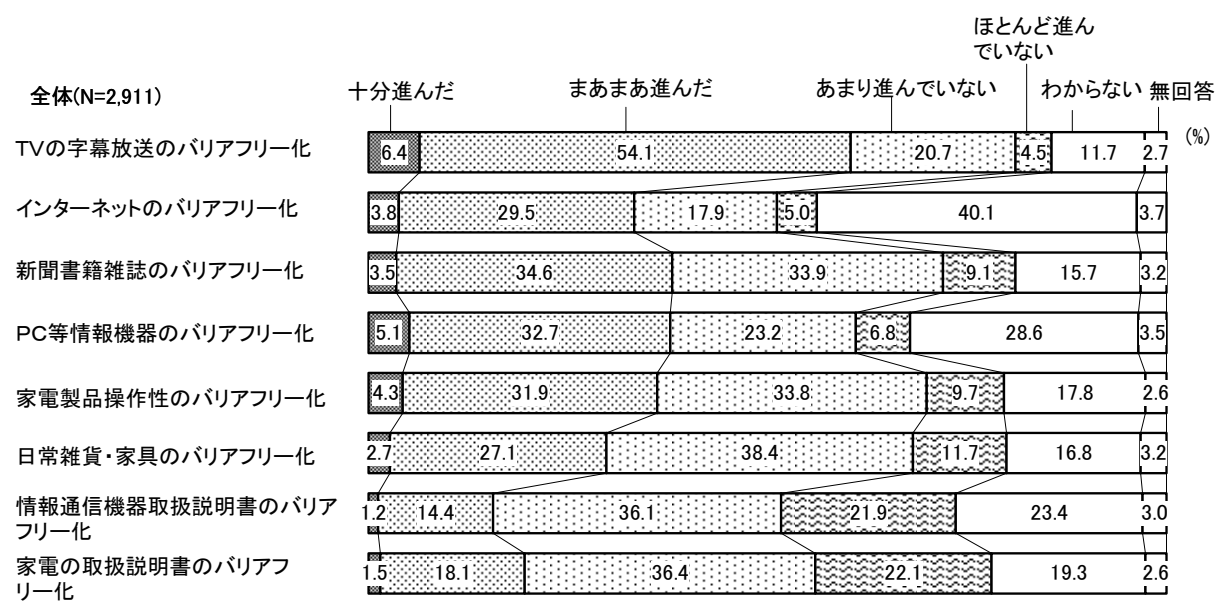
水辺海辺空
間バリアフ
リー化



(6) 情報・各種製品についてのバリアフリー化の進展 (問9)

情報・各種製品についてのバリアフリー化の進展を種類別にみると、「進んだ」の比率によって概ね3つのグループに分けることができる。1つ目は「進んだ」が60.5%と最も多い「TVの字幕放送」、2つ目は30%~40%弱の「新聞書籍雑誌」「PC等情報機器」「家電製品操作性」「インターネット」「日常雑貨・家具」、3つ目は「進んだ」が20%以下の「家電の取扱説明書」「情報通信機器取扱説明書」である。このうち2つ目のグループでは、多数の人が利用する「日常雑貨・家具」「家電製品」「新聞書籍雑誌」と比べ、利用者が比較的限られる「PC等情報機器」「インターネット」の「わからない」が、それぞれ多くなっている(図表Ⅱ-3-6-①)。

図表Ⅱ-3-6-① 情報・各種製品についてのバリアフリー化の進展 (全体)

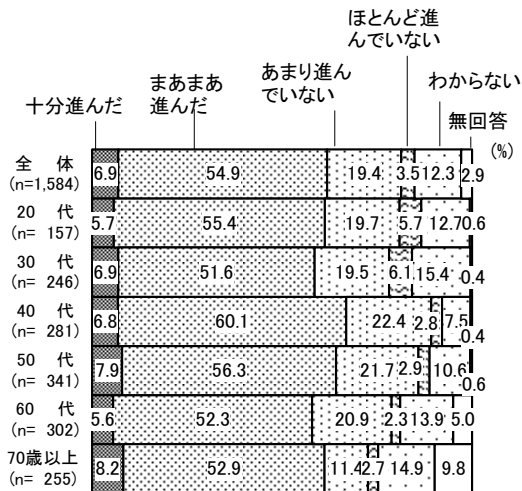
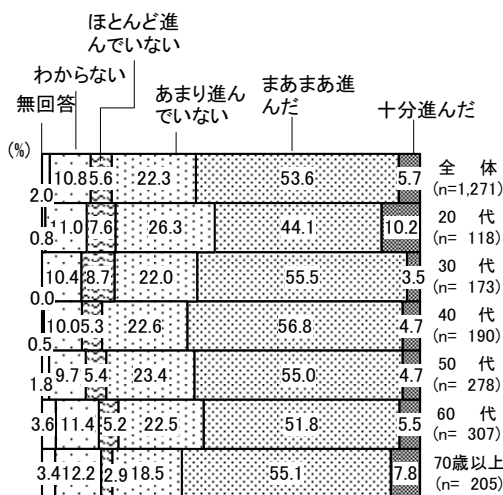


- 情報・各種製品の種類のバリアフリー化の進展について、性別及び性・年代別にみる。
- <TVの字幕放送> 男女ともに「進んだ」が「進んでいない」の2倍近く多くなっている。性・年代別には、男女とも年代による大きな差はない（図表Ⅱ-3-3-②TVの字幕放送）。
- <インターネット> 男性の方が女性に比べて「進んだ」が多くなっている。性・年代別にみると、男女とも年代による差が大きく、多い年代ほど「進んだ」が少なくなるとともに「わからない」が多くなっている（図表Ⅱ-3-3-②インターネット）。
- <新聞書籍雑誌> 性・年代別にみると、男女で年代による回答状況がかなり異なっており、男性の70歳以上で「進んだ」が多くなっている（図表Ⅱ-3-3-②新聞書籍雑誌）。
- <PC等情報機器> 性・年代別にみると、男女とも20代～40代で「進んだ」が多くなっており、一方、50代以上では「わからない」が目立っている（図表Ⅱ-3-3-②PC等情報機器）。
- <家電製品操作性> 性・年代別にみると、男女で差はあまり大きくないが、60代以上で「進んだ」が多いことが少し目立っている（図表Ⅱ-3-3-②家電製品操作性）。
- <日常雑貨・家具> 女性が男性に比べて「進んだ」が多くなっている。性・年代別にみると、男女とも年代による差はあまり大きくないが、女性の50代で「進んだ」が少なくなっている（図表Ⅱ-3-3-②日常雑貨・家具）。
- <情報通信機器取扱説明書> 男女とも20代、30代と60代以上で「進んだ」が比較的多くなっている（図表Ⅱ-3-3-②情報通信機器取扱説明書）。
- <家電の取扱説明書> 男女とも60代以上で「進んだ」が比較的多くなっている（図表Ⅱ-3-3-②家電の取扱説明書）。

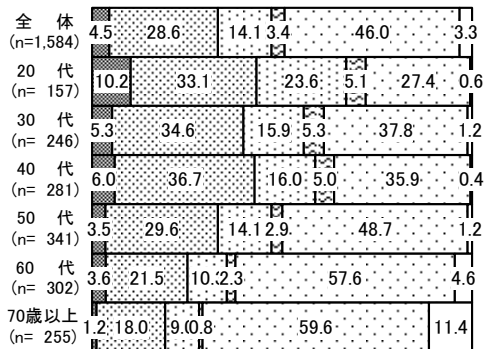
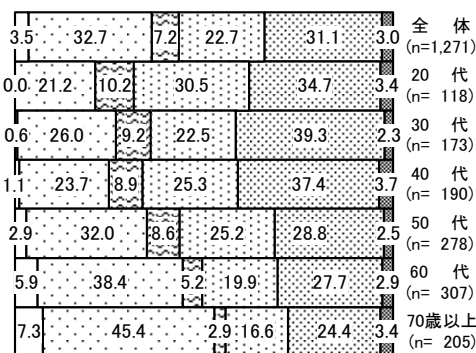
図表Ⅱ-3-3-② 情報・各種製品についてのバリアフリー化の進展（全体、性・年代別）

〈男性〉

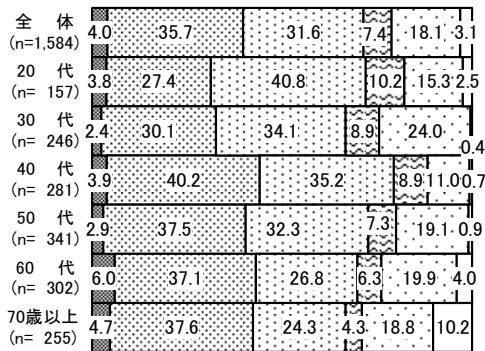
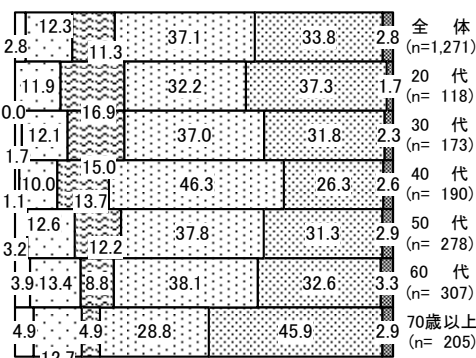
〈女性〉



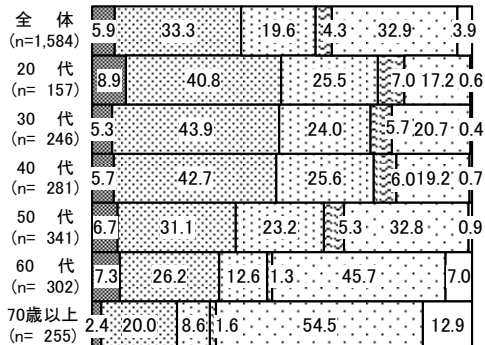
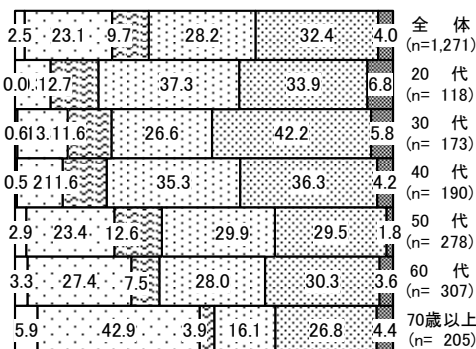
TVの字幕放送のバリアフリー化



インターネットのバリアフリー化



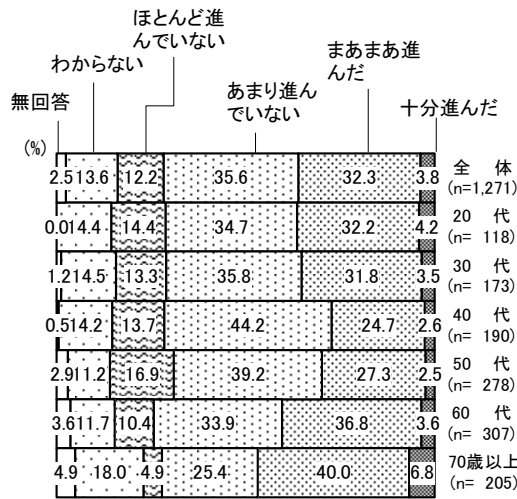
新聞書籍雑誌のバリアフリー化



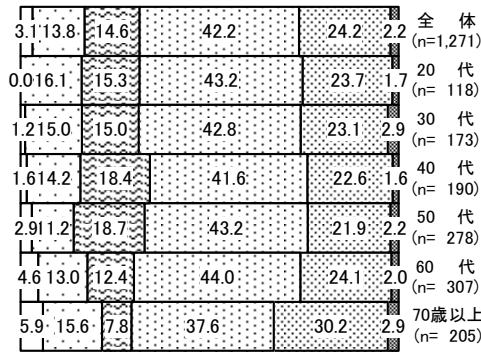
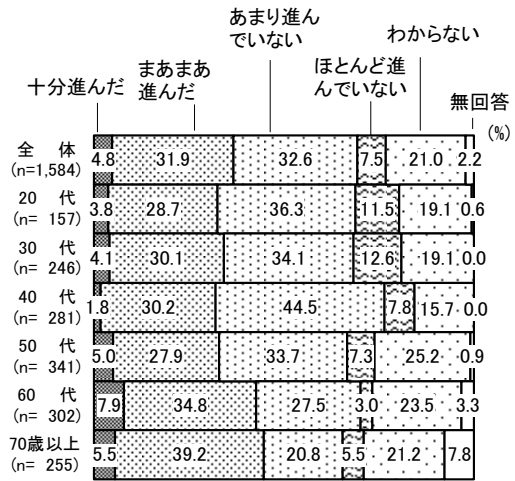
PC等情報機器のバリアフリー化

〈男性〉

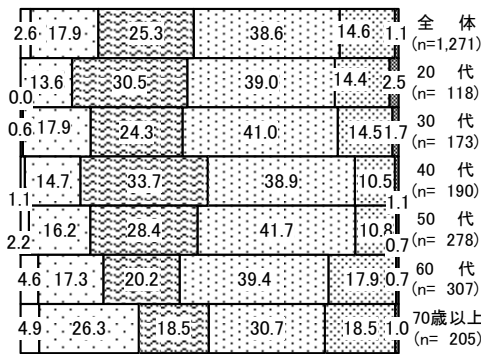
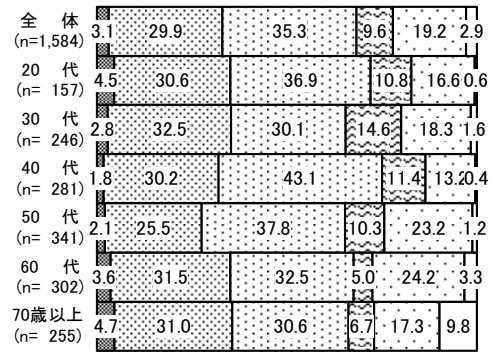
〈女性〉



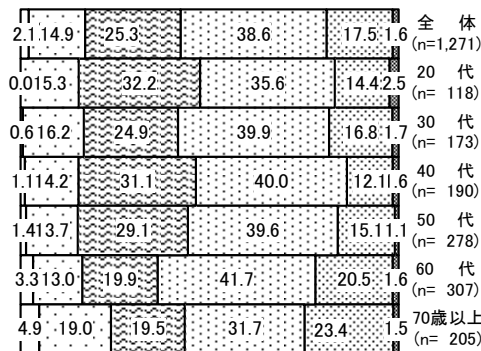
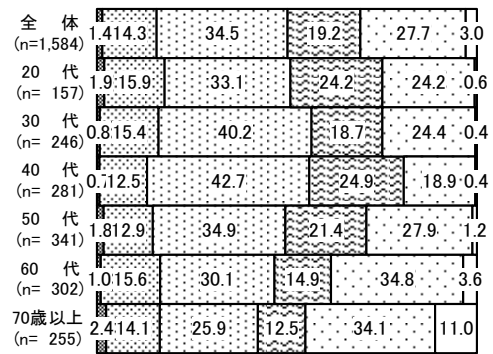
家電製品の操作性のバリアフリー化



日常雑貨・家具のバリアフリー化



情報通信機器取扱説明書のバリアフリー化



家電の取扱説明書のバリアフリー化

